

羽 村 市

市制施行 30周年記念誌

－未来へつなく

“はむらの歩み”－



市制施行 30 周年に 心を寄せて

羽村市長 橋本 弘 山



平成 3 年 11 月 1 日に市制を施行した羽村市は、都心から西へ約 45 キロに位置し、多摩川に代表される豊かな自然と、バランスよく配置された住宅地や工業地域とが調和した暮らしやすいまちとして発展し、令和 3 年に市制施行 30 周年を迎えます。

この記念誌では、今日まで羽村市が歩んできた軌跡を、現在取り組んでいる市史編さん事業の成果を用いて紹介しています。はるか原始の時代から中世、近世、近現代と、私たちに遺された史料を通して見えてくるのは、その時代ごとに懸命に生きてきた人々の姿です。現在の羽村市の発展があるのも、そうした先人たちの努力と熱意、そして進取の気性があったことからです。そのご労苦に心より敬意と感謝を申し上げます。

こうして受け継がれてきた羽村市をさらに発展させ、希望あふれる将来への道筋を示していくことが市政を託された私の使命だと感じています。豊かな水と花と緑に囲まれた郷土「はむら」の文化と財産を未来に向かって大切に守っていくとともに、めまぐるしく変化する社会情勢に適切に対応し、すべての皆様がいきいきと安全・安心・快適に暮らせるよう、新しいまちづくりに全力で取り組んでまいります。

今後とも市民の皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

羽村市民憲章

わたくしたち市民は 多摩川の清流に育まれた心豊かな人間性と
花と緑に恵まれた 美しいまちを誇りとします
先人の進取の気性と英知によって築かれたこの郷土を受け継ぎ
さらに 温かい心のかよいあう活力あふれるまちづくりのために
この市民憲章を定めます

1. 人も自然も生きいきと息づく やすらぎのあるまちをつくります
1. 郷土を愛し 自治の心を高め 互いに 尊重しあうまちをつくります
1. 明るく健康な家庭を築き 働く喜びに満ちたまちをつくります
1. 知性と文化にあふれ 青少年がたくましく成長するまちをつくります
1. 友愛と交流を深め 世界の人々と心のかよいあうまちをつくります

(平成 3 年 11 月 1 日制定)

羽村市の プロフィール

羽村市は平成 3 年 11 月 1 日に市制を施行しました。総面積 9.90 平方キロメートル、都心から西へ約 45 キロメートルに位置します。多摩川周辺の自然や武蔵野の面影を残す緑豊かな土地で、市民生活と都市機能がバランスよく調和しています。



市章

羽村市の羽の字をもとに、羽村の堰から噴出する水を円形に、二本の虹で未来に躍進する産業と文化を表し、丸形は市民との融和と団結を象徴しています。
昭和 31 年 10 月 1 日に町章として制定し、市制施行により市章となりました。



市の木 イチョウ

市内の公共施設や神社寺院の他、街路樹にも多く植樹されています。秋には黄金色の鮮やかな紅葉を見せ、市民の目を楽しませています。
(昭和 48 年 12 月 21 日制定)



市の鳥 アオバズク

夏鳥として市内に訪れる渡り鳥です。大木のうろを棲みかとし、特徴的な鳴き声をしています。多摩川の周辺や、大木のある公園で観察されます。
(昭和 48 年 12 月 21 日制定)

市の花 サクラ

羽村堰周辺をはじめとして、市内に多く植樹されています。とくに玉川上水沿いのサクラは、名所として近隣地域にも知られています。
(昭和 48 年 12 月 21 日制定)



市制施行 30 周年記念ロゴマーク

記念ロゴマークは市章を数字の「0」に見立てて 30 周年を表現するとともに、明るい未来を予感させるいろどりの豊かな水の流れをとり入れています。市の公式キャラクター「はむりん」とあわせて市民の皆様に愛着をもっていただけるデザインとしています。

目次

- 3 市制施行 30 周年に心を寄せて
- 4 羽村市民憲章
- 5 羽村市のプロフィール
- 7 羽村市 30 年のあゆみ
- 10 年表で振り返る羽村市の 30 年
- 14 羽村市風景アルバム
- 19 『羽村市史 資料編 自然』より
羽村の自然
自然①坂のまち羽村
自然②調査風景
自然③カメラがとらえた動物
- 27 『羽村市史 資料編 中世』『羽村市史 資料編 考古・中世補遺』より
原始・古代・中世を辿る
考古①発掘調査をみる
考古②縄文遺跡をみる
考古③古の風景
中世①中世の羽村市域
- 37 『羽村市史 資料編 近世』より
近世の羽村市域
近世①近世の羽村市域 羽村
近世②近世の羽村市域 五ノ神村
近世③近世の羽村市域 川崎村
- 45 『羽村市史 資料編 近現代図録』より
近現代をみる
近現代①生業と産業
近現代②市街地開発と都市化
近現代③教育と文化
- 53 『羽村市史 資料編 民俗』より
羽村の暮らし
民俗①聞き取り調査と実地調査
民俗②くらしの調査
民俗③春祭り
- 63 写真図表一覧

羽村市 30 年のあゆみ

羽村発展の軌跡を辿って

羽村は江戸時代まで武蔵野の典型的な農村でしたが、1653 年（承応 2 年）に市域内の多摩川を取り入れ口とする玉川上水が開削されると、江戸との交流が頻繁となり活況を呈するようになりました。

1889 年（明治 22 年）の市町村制施行により、当時の羽村、五ノ神村、川崎村が合併し、現在の羽村市の前身である「西多摩村」が誕生しました。当時の人口は 3,132 人といわれています。西多摩村は明治、大正、昭和と先覚者の努力により近代化が推し進められ、特に明治末期から昭和初期にかけては養蚕業が発展し、全国的にも広くその名が知られるようになります。

戦後は、養蚕に代わって酪農や養豚といった畜産業が発展し、市街化の進展に伴って人口が増加していきます。こうして 1956 年（昭和 31 年）の町制施行により、人口 10,104 人の「羽村町」が誕生しました。



羽村町制施行記念式典



蚕の飼育風景



村民運動会



豚共進会



2 等車の停車位置を示す案内板

市街地開発区域の指定を契機に

羽村町は、1962年（昭和37年）に首都圏整備法による市街地開発区域の指定を受けると、土地地区画整理事業等を推進して農業中心のまちからの転換を図りました。積極的な工場誘致により青梅線以東に工場の進出が相次ぎ、産業形態は大きな変貌を遂げました。また、工場に勤務する従業員を受け入れるために市街地開発も進み、急激に人口が増加しました。こうして、現在につながる工業都市と住宅都市が調和した職住近接都市の原型が築かれたのです。

平成に入ると人口が5万人を突破し、1991年（平成3年）11月1日、市制施行により「羽村市」（人口53,381人、19,386世帯）が誕生しました。



西東京工業団地に工場進出始まる



羽村町動物公園出入口



スポーツセンターオープン



桜まつりの露店前を行き交う人びと



神明台土地区画整理事業



羽村町役場

羽村市30年のあゆみ

市制施行により新たに担うこととなった福祉や教育などの責務を着実に果たし、5万6千人の人口を有する自立した都市としての基盤を着実に築いてきました。

その一方で自治体を取り巻く社会環境は大きな変化を迎えました。地方分権一括法の制定による地方分権型社会の進展や、少子高齢化を背景とした本格的な人口減少社会の到来、頻発する自然災害に対する安全・安心なまちづくりの取組み強化など、さまざまな行政需要やニーズへの対応が求められています。

現在、市では新たな「羽村市の未来」に向けて、令和4年度を開始年度とする「第六次羽村市長期総合計画」の策定に取り組んでいます。この計画に基づいて市民の皆様との連携を一層強めながら、時代の変化に対応した、より暮らしやすい安全・安心のまちづくりに力を注いでいきます。



生涯学習センターゆとろぎ



開市式



市制施行10周年記念式典



市制施行20周年記念式典

未来に向けて

羽村市が皆様とともに進んできた30年の歩みを振り返ると、そこには市民・事業者・行政がそれぞれの役割と責任を担い、お互いに連携を重ねてきた歴史があります。

これからも、羽村市に暮らす人々が世代や立場を超えてさまざまな形でつながり、いきいきと輝き続けられるように、そして明るく元気な笑い声や希望に満ちた笑顔が見られるように、そんな暮らしやすいまちの実現に向けて、羽村市は「未来」を目指して進んでいきます。

年表で振り返る羽村市の 30 年

1991年(平成3年)

11月1日 市制施行(人口53,381人、19,386世帯)

- 11月 市制施行祝賀イベントを開催 ①
大字川崎、松原町地区の住居表示を「双葉町」とする

1992年(平成4年)

- 3月 第三次羽村市長期総合計画(平成4～13年)を策定
- 5月 高齢者在宅サービスセンターいこいの里が開所
西児童館(コンピューター館)が開館
- 10月 第1回羽村市健康フェアの開催
- 11月 水道事務所(配水場)と配水塔が完成

1993年(平成5年)

- 3月 新奥多摩街道(福生都市計画道路3・4・5号線)羽村区間が開通
- 4月 増築した市役所新庁舎(東棟)で業務開始
多摩東京移管100周年記念事業「TAMA らいふ21」の開催
- 5月 国際交流協会の設立
- 10月 ケーブルテレビで「テレビはむら」が放映開始 ②
農産物直売所が営業開始
- 11月 小作台土地区画整理事業の完了(面積65.92ha、総事業費96億円)

1994年(平成6年)

- 3月 羽村市地域福祉計画を策定
羽村市生涯学習推進基本計画を策定
- 9月 多摩川上流雨水幹線建設工事の開始

1995年(平成7年)

- 6月 動物公園入園者500万人達成
- 8月 戦後50周年記念式典にて羽村市平和都市を宣言
- 10月 いこいの里に高齢者在宅介護支援センターを開設
通称「大正土手」の「一本杉」養生工事を実施

1996年(平成8年)

- 5月 浄水場と工業用水道配水場が完成 ③
- 6月 羽村駅西口土地区画整理事業都市計画案の公告、縦覧
- 10月 山梨県高根町(現・北杜市)と姉妹都市を提携
- 12月 行政改革大綱実施計画を策定

1997年(平成9年)

- 3月 第三次羽村市長期総合計画・後期基本計画(平成9～13年)を策定
- 4月 小作駅東口にペDESTリアンデッキが完成 ④
- 10月 羽村市情報公開条例を公布(平成10年4月施行)
- 11月 男女共同参画都市を宣言

1998年(平成10年)

- 5月 動物公園が開園20周年を迎える
- 7月 東児童館(アドベンチャー館)が開館 ⑤
- 10月 羽村市ホームページを開設

1999年(平成11年)

- 3月 地域振興券を交付
- 4月 新しい保健センターが開所
福祉センターが開所 ⑥
小作立体交差(都市計画道路3・3・33号線立体交差)が開通



2000年(平成12年)

- 4月 在宅介護支援センターと子ども家庭支援センターを設置
介護保険制度が始まる
地方分権により国・都の委託事務が市の事務になる
- 7月 東京都羽村勤労福祉会館が市に移管される
普通交付税の交付団体となる
- 8月 市役所が環境マネジメントシステム ISO14001 認証を取得

2001年(平成13年)

- 2月 羽ヶ上土地区画整理事業の完了(面積19.29ha、総事業費67億2000万円)
- 3月 新しい図書館が開館
産業福祉センター「Wing "i"」開館
- 4月 公立福生病院が業務開始
井上篤太郎市長が退任
並木心市長が就任
- 10月 フレッシュランド西多摩がオープン
- 11月 市制施行10周年記念式典を開催 ①

2002年(平成14年)

- 3月 第四次羽村市長期総合計画(平成14～23年)を策定
新しい農産物直売所がオープン ②
- 4月 羽村第二中学校・第三中学校で二学期制を開始
- 8月 動物公園の園長を全国から公募
- 10月 ごみの戸別収集・一部有料化の開始

2003年(平成15年)

- 4月 市役所の土・日窓口開庁が始まる
羽村市環境方針を策定
- 8月 玉川上水が国の史跡に指定される
- 10月 羽村市個人情報保護条例の施行
- 11月 玉川上水開削350周年を記念してシンポジウムを開催

2004年(平成16年)

- 2月 高度浄水施設が完成 ③
- 9月 根搦前水田でチューリップオーナー制度が始まる
- 11月 姉妹都市の山梨県高根町が合併により北杜市となる

2005年(平成17年)

- 3月 動物公園にスタディホールを開設
- 4月 羽村市弓道場がオープン
- 5月 コミュニティバス「はむらん」が運行開始
羽村市文化協会が発足

2006年(平成18年)

- 4月 生涯学習センターゆとろぎが開館 ④
- 5月 「はむら健康の日」事業が始まる
- 12月 市内すべての小中学校に防犯カメラを設置

2007年(平成19年)

- 3月 第四次羽村市長期総合計画・後期基本計画(平成19～23年)を策定
- 4月 羽村駅西口土地区画整理事務所を開設
羽村市男女共同参画推進条例を施行
- 11月 新しい羽村駅西口駅舎が完成 ⑤
ペットボトル水「水はむら」の販売開始



2008年(平成20年)

- 3月 (財)羽村ふれあい地域づくり公社が解散
- 4月 はむら総合型スポーツクラブはむすぶが誕生
清流地区の公共下水道の供用開始

2009年(平成21年)

- 4月 羽加美栄立体交差(都市計画道路3・4・16号線立体交差)の開通 ①
- 10月 地域包括支援センターを特別養護老人ホーム羽村園内にも設置

2010年(平成22年)

- 2月 公立福生病院が新病棟を加え、フルオープン
- 3月 羽村市水道ビジョン・羽村市下水道総合計画を策定
- 5月 小作駅東口に市民パトロールセンターを開設
- 6月 「羽村市と杏林大学との連携に関する協定」を締結
- 12月 羽村市事業仕分けを実施

2011年(平成23年)

- 2月 水道事業50周年記念式典・記念事業を開催
- 3月 東日本大震災被災地へ支援物資を搬送
東日本大震災の影響に伴う計画停電により公共施設を休館
- 4月 羽村第三中学校区で小中一貫教育を開始
- 5月 東日本大震災被災地に市職員を派遣
羽村駅西口に市民パトロールセンターを開設
- 10月 市制施行20周年記念式典を開催 ②

2012年(平成24年)

- 1月 平和市長会議に加盟
- 3月 でんきバス「はむらん」の運行開始
第五次羽村市長期総合計画(平成24～33年)を策定
羽村市生涯学習基本計画(平成24～33年)を策定
- 4月 市内全中学校区で小中一貫教育を開始
羽村市暴力団排除条例の施行
- 7月 羽村市生涯学習基本条例の施行
羽村市ポイ捨て及び飼い犬のふんの放置の禁止並びに路上喫煙の制限に関する条例の施行
- 11月 第1回羽村市環境フェスティバルを開催
羽村市版事業仕分け「公開型事務事業外部評価」を実施

2013年(平成25年)

- 4月 教育委員会に市史編さん担当を設置
市立保育園の民営化移行が始まる
- 5月 天皇后両陛下(現・上皇上皇后両陛下)が羽村市郷土博物館に行幸啓
- 7月 羽村市公式キャラクターはむりんの誕生 ③
- 9月 第68回国民体育大会(スポーツ祭東京2013・東京多摩国体)の開催 ④

2014年(平成26年)

- 8月 羽村市公式ツイッターの運用開始
- 10月 羽村市の面積が9.90平方キロメートルに変更
「はむりんのうた」「はむりんダンス」の完成
- 11月 羽村取水堰(投渡堰)が土木学会選奨土木遺産に認定
- 12月 第1回羽村にぎわい音楽祭を開催

2015年(平成27年)

- 3月 消費生活センター開設40周年記念式典を開催
- 8月 郷土博物館開館30周年記念式典を開催
- 9月 杏林・羽村 commons 2015を開催
- 10月 第1回はむらイルミネーション～はむりんの魔法～の開催
- 12月 羽村市 A Z E M S プロジェクトの運用開始 ⑤



2016年(平成28年)

- 3月 羽村市公共施設等総合管理計画の策定
- 7月 第1回HAMURAメリーリボン演劇祭を開催
- 11月 羽村市公式PRサイト「愛情ギョツとず〜っとはむら」を開設 ①
- 12月 マンホールカードの配布を開始

2017年(平成29年)

- 2月 第五次羽村市長期総合計画・後期基本計画(平成29～33年)を策定
- 3月 動物公園入園者1000万人を達成
羽村市生涯学習基本計画・後期基本計画(平成29～33年)の策定
羽村市シティプロモーション基本方針の策定
羽村市PRアクションプラン(広報戦略)の策定
- 11月 羽村市 A Z E M S プロジェクトが地球温暖化防止活動環境大臣表彰を受賞

2018年(平成30年)

- 2月 訴訟(墓地経営不許可処分取消等請求事件)の終結
- 5月 動物公園看板制作費の寄付(クラウドファンディング)の募集開始
- 10月 羽村市動物公園開園40周年記念事業・記念式典の開催 ②
テレビはむらが25周年を迎える
- 11月 キルギス共和国男子柔道ナショナルチームの「柔道グランドスラム大阪2018」事前キャンプ受入れ ③

2019年(平成31年・令和元年)

- 6月 気象観測装置(POTEKA)の運用開始
キルギス共和国のホストタウンとして登録
- 7月 キルギス共和国男子柔道ナショナルチームによる「東京2020オリンピック競技会」事前キャンプに関する合意書を締結
- 8月 キルギス共和国男子柔道チームの「2019世界柔道選手権東京大会」事前キャンプ受入れ
- 10月 台風19号により市内に被害

2020年(令和2年)

- 2月 東京2020オリンピック聖火リレーのリハーサルを実施
- 3月 羽村駅自由通路の拡幅が完了
- 4月 会計年度任用職員制度の開始
新型コロナウイルスの感染拡大に伴う緊急事態宣言の発令によりイベント等の縮小・中止が相次ぐ
- 7月 「火災による死者ゼロ5000日」の達成
- 9月 市役所連絡所(羽村駅西口、三矢、小作台)の廃止

2021年(令和3年)

- 3月 羽村市自然休暇村清里・羽村市自然休暇村ハケ岳少年自然の家が閉館
- 4月 並木心市長が退任
橋本弘山市長が就任
- 5月 市民への新型コロナウイルスワクチン接種開始 ④
- 6月 羽村市長期総合計画審議会から第六次羽村市長期総合計画の策定に向けた「羽村市基本構想」の答申書が提出(中間答申)
- 7月 東京2020オリンピック聖火リレーの点火セレモニーに参加 ⑤
- 8月 東京2020パラリンピック聖火の採火式を実施
- 9月 「羽村市と国立音楽大学との連携に関する協定」を締結

11月1日 市制施行30周年を迎える

愛情\ギョツ/と
ず〜っとはむら



羽村市風景アルバム

はむりんと羽村の四季をめぐる

みなさん、こんにちは。
羽村市公式キャラクターの「はむりん」です。
わたしの生まれ故郷“はむら”は、清らかな「水」と
色とりどりの「花」、そしてとっても優しい気持ちになれる「緑」が
いっぱいのすてきなまちです。
全国の皆さんに羽村市の魅力を伝えるために日々がんばっています。

みなさんもまちで見かけたら声をかけてくださいね。



今日は、
羽村市の四季の風景を
紹介していくりん！

たんじょうび
7月27日

せいべつ
女の子

すんでいるところ
東京都羽村市

デザイン

羽村市の魅力である「水・花・緑」をモチーフに、水のしずくの形の頭には桜の花を飾り、体は羽村橋のケヤキがイメージされています。また、「はむりん」の名札はかわいいチューリップです。



春



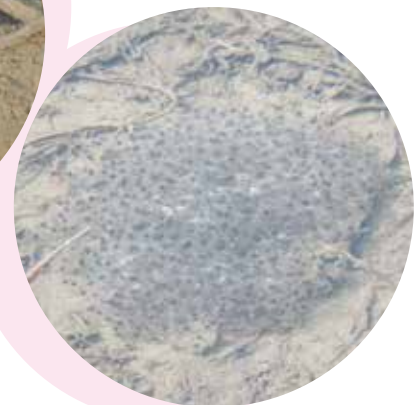
田植え前の水田を彩るチューリップ



林床に
ひっそりと咲く
キンラン(上)と
ギンラン(下)



産卵した
ヤマアカガエル(左)
とその卵塊(下)



玉川上水沿いに咲き誇るサクラ



新緑の美しいクヌギやコナラ



羽村の春は
色鮮やかな
自然がたくさん
あるりん!!



夏



夏の陽をうけて咲く大賀ハス



清らかな流れのなかに咲くバイカモ



太陽がまぶしい
羽村の夏は
生命感が
あふれているよ!!



地域の人たちに守られているホタル



水田にたたずむアオサギ



夏の風物詩 アユの友釣り

秋



黄金色に染まった稲穂とカカシ

多摩川にかがやく紅葉



河原でたくましく咲くカワラノギク



冬



白い雪におおわれた水田と真っ青な冬の空

冬の訪れを告げるジョウビタキ



雪化粧のペリカン公園

季節ごとに
羽村の魅力を
さがして
みよう!!



羽村市史編さん事業のあゆみ 1

「地域が歩んできた歴史を知る」

平成 26 年 4 月、羽村市に市史編さん室が設置されました。昭和 49 年の『羽村町史』の発行からおよそ半世紀を経て、『羽村市史』の刊行に向けた取り組みを開始しました。

市史編さんの目的は、新たな視線で羽村の歴史を明らかにすることで市民の皆様の郷土に対する理解と関心を深めることです。これまで市史編さん室では、皆様からたいへん多くのご協力をいただきながら『羽村市史』の編さん事業を進めてきました。令和 2 年度までに発行した 6 冊の『羽村市史 資料編』には、羽村の歴史・民俗・自然を様々な角度から調査した成果を掲載しています。

このたび、市制施行 30 周年を迎えるにあたり、記念誌としてこれまでの市史編さん事業の成果を用いて羽村市のあゆみを紹介していくこととしました。個性豊かな 6 冊の資料編から厳選した見どころを掲載しています。市の歩みだけでなく羽村町以前の歴史や民俗、自然についてもぜひご覧ください。

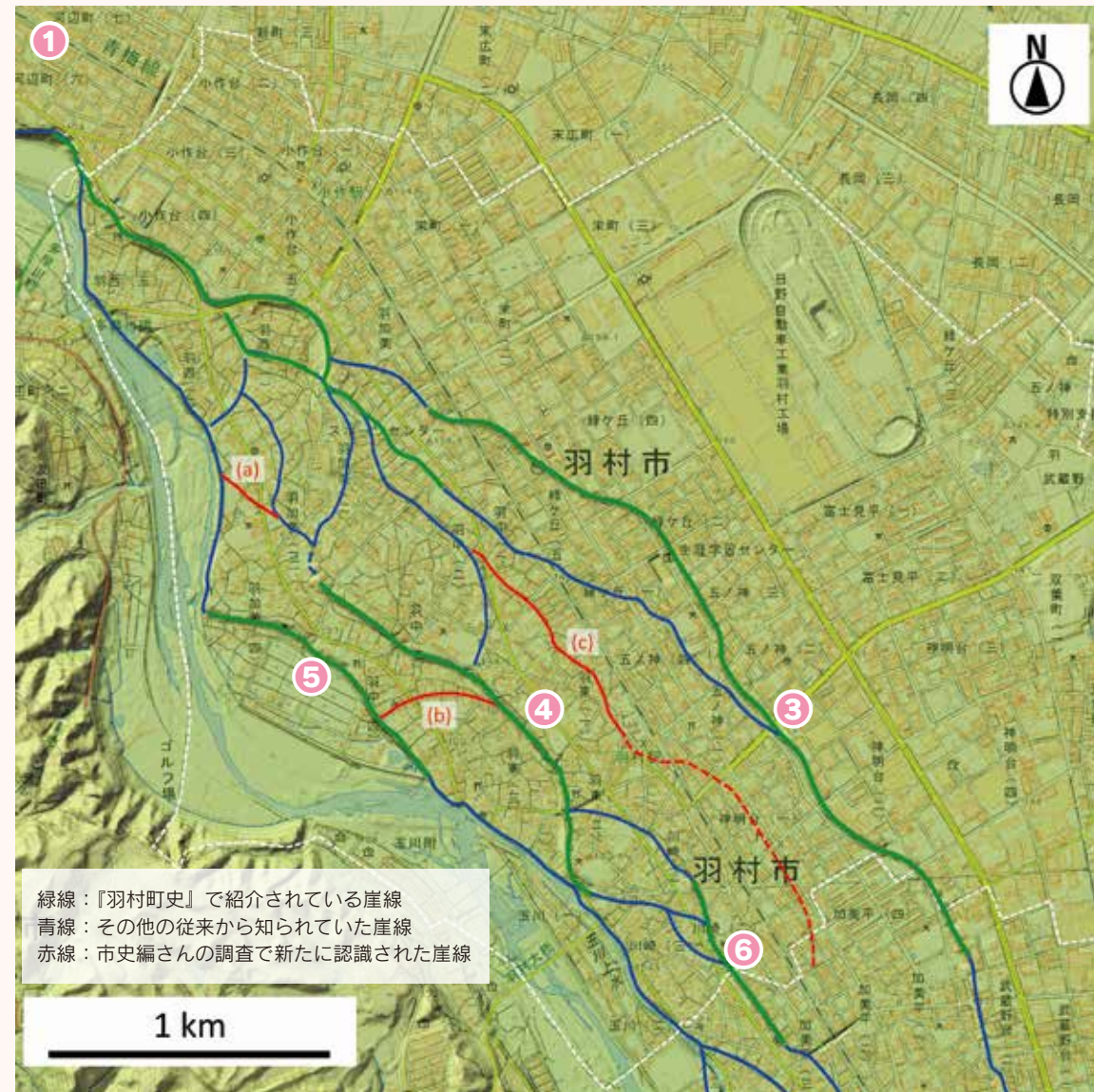
『羽村市史 資料編 自然』より

羽村の自然

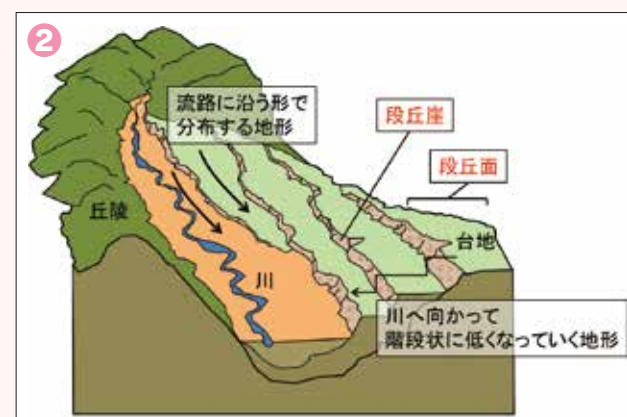
- ・『羽村市史 資料編 自然』
- ・『羽村市史 資料編 中世』
- ・『羽村市史 資料編 考古・中世補遺』
- ・『羽村市史 資料編 近世』
- ・『羽村市史 資料編 近現代図録』
- ・『羽村市史 資料編 民俗』



坂のまち羽村



① 市史編さん事業の調査で確認した市内の崖線



② 河岸段丘のイメージ図

昔の多摩川は、ある時期は狭山丘陵の南北を削り、またある時期は氾濫により大量の土砂を堆積させ、武蔵野台地の扇状地を形成しました。その後、多摩川は侵食と堆積を繰り返しながらも武蔵野台地の南縁を削り、現在の位置に到ります。市内には多くの坂があり、土地は多摩川へ向かって階段状に低くなっています。この地形を川がつくった河岸段丘（河成段丘）とよび、平坦な面を段丘面、その間の坂や崖を段丘崖とよびます。



③ 五ノ神崖線（水木公園）



④ 羽村崖線（稲荷緑地）



⑤ 根搦崖線（根搦前チューリップ畑）



⑥ 川崎崖線（宗禅寺）

※③～⑥の撮影場所は左ページの地図上に記載

羽村で生活していると、どこへ出かけるにも必ずといっていいほど通過する坂道。駅へ向かう時に、通学路に、または多摩川へ遊びに行く時に…。この普段なにげなく上り下りしている坂道は、昔の多摩川が武蔵野台地を削った痕跡です。

調査のときの1コマ

調査を始めたころ、地図を片手に崖線に沿って曲がりくねっている羽村の道を行ったり来たりしたものです。その時の移動手段は、電動自転車。坂の多い市内をめぐするには、この電動自転車が頼もしい相方でした。



⑦ 電動自転車で坂を登る（玉川上水右岸）



⑧ ポールとハンドレベルを用いた比高調査（宮前自然公園）

調査風景

気象観測



① 2015年8月2日
14時前後の観測風景

市内の詳細な気温分布をとるために、年4回、季節ごとに集中気象観測を行いました。特に大規模に行ったのが夏の観測でした。60名前後の調査員が8つほどの班に分かれて、受け持ちのルート上の7～9地点を1時間で往復します。
夏の日中は暑さとの戦い。日陰がない場所での観測も多いため、調査員は狭い日陰で肩を寄せ合って休憩をとりました。

真冬は寒さとの戦い。防寒対策を万全にしているにもかかわらず、夜間・早朝の観測は大変厳しいものがありました。2018年2月の羽村堰下橋付近では-6℃と、調査期間中で最低気温を観測しました。



② 2018年2月5日21時と
2月6日6時の観測風景



③ 気象観測地点分布 ○：長期観測、●：集中観測



④ 百葉箱での気温観測(長期観測)

地下水位調査



⑤ まいまいず井戸

⑥ 懐古の井戸

⑦ 地下水位計
先端が水面につくとブザーが鳴り、地下水面までの距離を測れます。

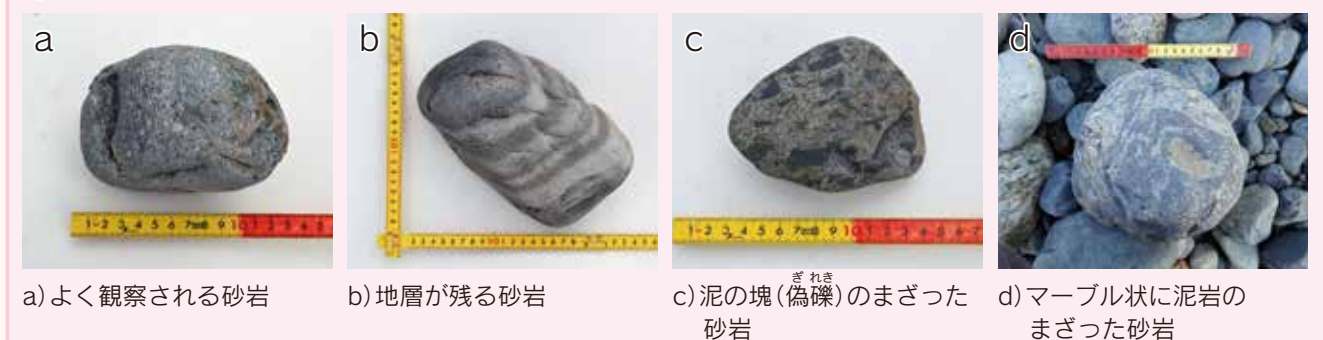
礫調査



多摩川の河原での調査も、夏は強い日差しと暑さ、冬は凍つく風と寒さとの戦いでした。調査をはじめた頃は、吹き降ろしてくる風の冷たさに驚きました。多摩川では砂岩の礫が最も多く、様々な模様の砂岩を観察することができます。

⑧ 多摩川での礫の調査

⑨ 多摩川の河原で見られる様々な砂岩礫



a) よく観察される砂岩

b) 地層が残る砂岩

c) 泥の塊(偽礫)のまざった砂岩

d) マーブル状に泥岩のまざった砂岩

カメラがとらえた動物



① 早朝、浅間岳北麓の小川にやってきたタヌキ



③ ④ 樹の幹に設置した自動撮影カメラ

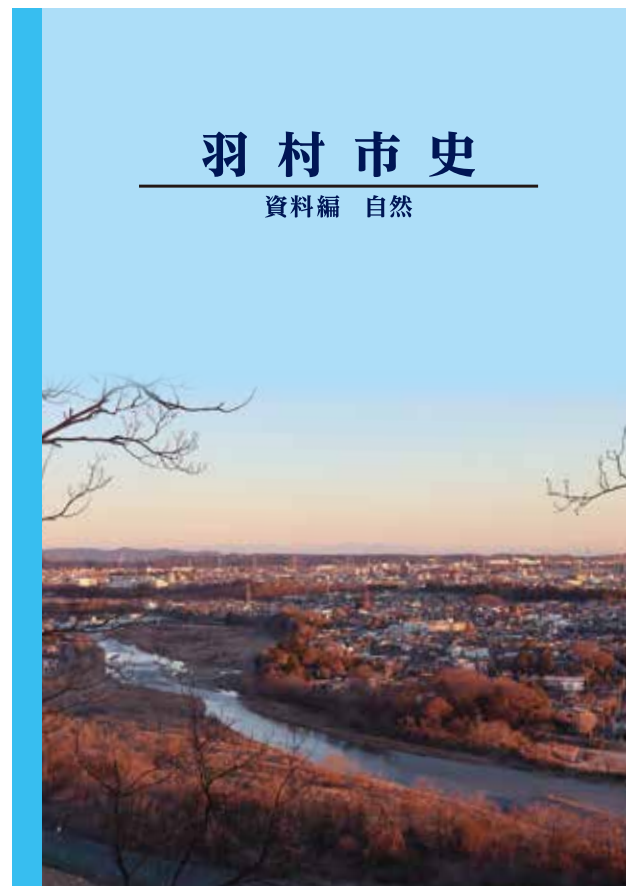
2017年7月から1年にわたって、草花丘陵の北側を流れる小川の脇に自動撮影カメラを設置し、動物の活動を調査しました。カメラは、動物の熱をセンサーで感知すると、その0.65秒後に自動で撮影する仕組みになっています。



1年の撮影期間で、タヌキ、イノシシ、アライグマ、ノウサギ、テンが多く記録されました。それ以外にも、ネコ、イタチ、ハクビシン、キツネ、アナグマも撮影されました。ミゾゴイは絶滅危惧種としてレッドリストに記載されている鳥類です。夜間は赤外線撮影のため白黒画像になります。

⑤ タヌキ ⑥ 子連れのイノシシ ⑦ アライグマ
⑧ イタチ ⑨ ノウサギ ⑩ キツネ ⑪ ミゾゴイ

『羽村市史 資料編 自然』



A 4判 379 ページ

羽村市の地形・地質や気候、動植物について、約4年間にわたる調査によって収集したデータを分析して収録しました。

第1部 羽村と周辺の地形・地質

- 第1章 羽村という土地
- 第2章 羽村市の景観
- 第3章 多摩川
- 第4章 羽村市内の坂：
多摩川がつくった河岸段丘
- 第5章 200万年前の羽村：上総層群
- 第6章 謎の礫層「青梅層」
- 第7章 羽村市の石ころ
- 第8章 玉川上水は
なぜ羽村から引かれたのか

第2部 羽村と周辺の気候

- 第9章 関東南西部の気候
- 第10章 羽村の気候とその季節変化
- 第11章 羽村における気候の経年変化
- 第12章 100年スケールでみる羽村の気候

第3部 羽村の生物と環境

- 第13章 生物からみた
羽村市の自然の位置づけ
- 第14章 生態環境の成り立ち
- 第15章 羽村市にみられる植物
- 第16章 羽村市に生息する動物
- 第17章 生態系の変化

『羽村市史 資料編 中世』『羽村市史 資料編 考古・中世補遺』より

原始・古代・中世を辿る

発掘調査をみる

山根坂上遺跡第1次・第2次調査



① 第1次調査

羽村町史編さん事業の一環として昭和46年、47年に行われた調査の様子です。



② 第2次調査

山根坂上遺跡第3次、羽ヶ田上遺跡第2次・第3次調査



③

新奥多摩街道の建設に合わせて昭和52年から56年に行われました。この調査では、多くの市域の人たちが市民作業員として参加し、発掘調査のほか報告書の作成にも貢献しました。



⑤



④



⑥

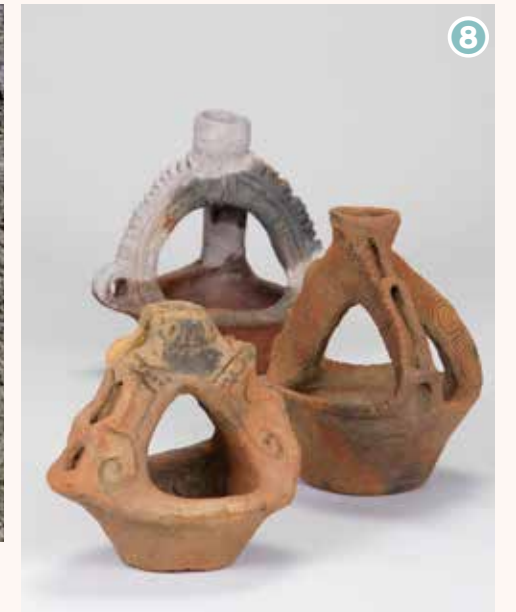
③ 調査風景 ④ 小学生の見学
⑤ 市民作業員による石器・剥片の接合
⑥ 市民作業員による土器復元の実習



⑦

⑦ 釣手土器出土状況(山根坂上遺跡A地区第7号住居址)

⑧の3点はいずれも山根坂上遺跡で発見されました。⑦のように、完形の状態で出土する釣手土器は少なく、貴重です。



⑧

⑧ 釣手土器 < 市指定有形文化財 >

羽ヶ田上遺跡第8次調査



⑨

⑨ 調査区
⑩ 住居S I 01(全景)

⑩

平成29年に行われた調査では、⑨の発掘した範囲から12棟の住居址(住居あと)が見つかりました。縄文時代中期末から後期はじめごろに特徴的に見られる、柄鏡のような形の床面に石を敷いた、柄鏡形敷石住居址も良好な状態で残っていました。

縄文遺跡をみる



① 羽村市内遺跡分布図 (No.4 は欠番)

羽村市域には 10 か所の遺跡があり、そのうち 8 か所が縄文時代の遺跡です。

表:周知の埋蔵文化財包蔵地の一覧 (No.4 は欠番)

No.	遺跡名	時代
1	精進バケ遺跡	縄文時代
2	林の上遺跡	縄文時代
3	根搦前遺跡 (No.3 遺跡)	古墳時代
5	山根坂上遺跡	縄文時代
6	羽ヶ田上遺跡	縄文時代
7	五ノ神鋳物師遺跡 (No.7 遺跡)	中世～近世
8	No.8 遺跡	縄文時代
9	No.9 遺跡	縄文時代
10	天王台遺跡	縄文時代
11	羽ヶ下遺跡	縄文時代

天王台遺跡



② 調査風景 (第 1 号住居址)

平成元年に発掘調査が行われました。この遺跡からは羽村市域で最も古い縄文時代中期の竪穴住居址が見つかっています。

精進バケ遺跡

③の住居址や④の埋葬炉の重なり具合から、使用された時期の違いや、複数回にわたって住居が建て替えられたことなどがわかります。このことから、縄文時代中期を通じて居住地として断続的に利用されていたと考えられます。



③ 4つの住居あとが重なり合っている様子 (第 11・13a・13b・13c 号住居址)



④ 重なり合っている炉 (第 14 号住居址埋葬炉)

山根坂上遺跡

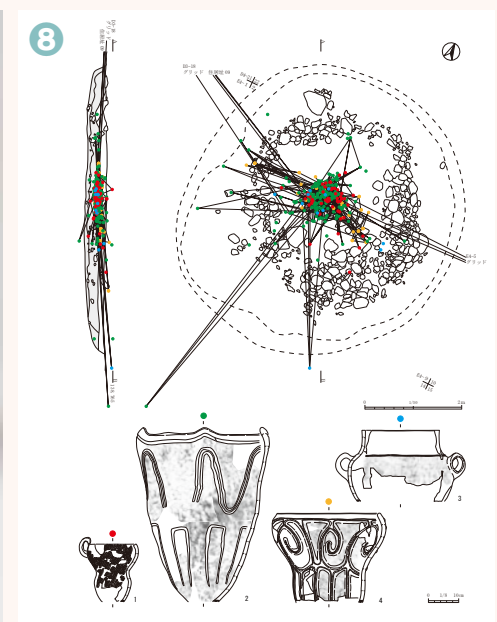


⑤⑥は山根坂上遺跡で出土した土器です。今回の市史編さんの調査によって、土器を住居址ごとに撮影することができました。また、土器の再実測と拓本採取作業も行い、発掘調査報告書では明らかになっていなかった土器実測図も資料編に掲載しています。

⑤ 出土土器 (第 3 次調査住居址 13)
⑥ 出土土器 (第 3 次調査住居址 03)

羽ヶ田上遺跡

発掘調査当時の資料を改めて確認し、1つの土器を構成する土器片の出土地点を⑧のように表しました。これを見ると、土器の破片が密集し重なり合っている様子がわかります。このことから、住居が使われなくなったときに、土器もそのまま残された可能性が高いと考えられます。



⑦ 出土土器 (第 2・3 次調査住居址 03)
⑧ 土器個体別出土分布図・接合図 (住居址 03)

古の風景

根搦前遺跡 (羽村市 No.3 遺跡)



① 根搦前遺跡の現況
② 出土遺物

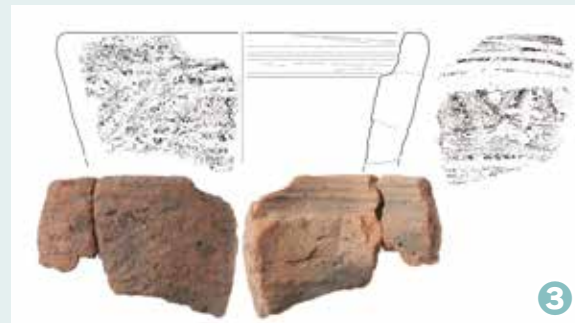
市内で唯一の、古墳時代の遺跡です。
春には一面にチューリップが咲き誇り、チューリップまつりが開催される根搦崖線下の水田に位置します。ここからは、遺物が4点見つかっています。



五ノ神鋳物師遺跡 (羽村市 No.7 遺跡)

現在の五ノ神地区には鋳物を製作した人びとがいました。江戸時代の前期、活発に活動していた五ノ神鋳物師です。遺跡はその活動拠点であり、鋳造関連の遺物が出土しています。

③は鍋鋳型の一部です。外面に縄目の文様が残っていることから、鋳型が割れても崩れないように縄で縛ったと考えられます。



③ 鋳型(鍋)

吉祥寺跡



④ 中世の陶器



⑤ 金属製品

阿蘇神社の西隣にあり、中世前期と近世以降の遺物が出土しています。④の陶器片は、羽村市域における中世の考古資料としては最も古いものです。⑤の右上は仏器とみられる銅鉢で、廃寺となった吉祥寺に関わるものと考えられます。ここは市指定史跡になっています。

阿蘇神社の中世瓦



⑥ 軒丸瓦〈市指定有形文化財〉



⑦ 軒平瓦〈市指定有形文化財〉



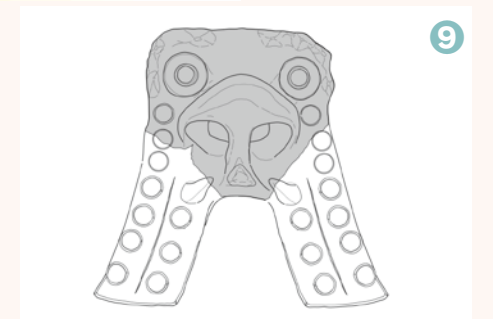
⑧ 鬼瓦〈市指定有形文化財〉



⑩ 鬼瓦(表)



⑪ 鬼瓦(裏)



⑨ 鬼瓦実測図より全体像

阿蘇神社の境内で見つかった14世紀はじめのものと推測される瓦群で、その一部は平成23年に市の文化財に指定されています。これらの瓦は、同じ瓦窯(瓦工房)で同時期に製作され、阿蘇神社で組み合わせて利用されたものと考えられています。

⑧は幅29.7cm、高さ27.2cmで、まるい目と大きな鼻が特徴的な鬼瓦です。

まいまいず井戸



JR 青梅線羽村駅東口近くの五ノ神社の境内にある、直径15.5m、深さ5.5mの巨大なすり鉢状の窪みを持つ井戸です。このすり鉢状の窪みに螺旋状の通路が付いていて、その形がカタツムリの殻に似ていることが名前の由来といわれています。昭和36年まで使用され、東京都指定史跡になっています。

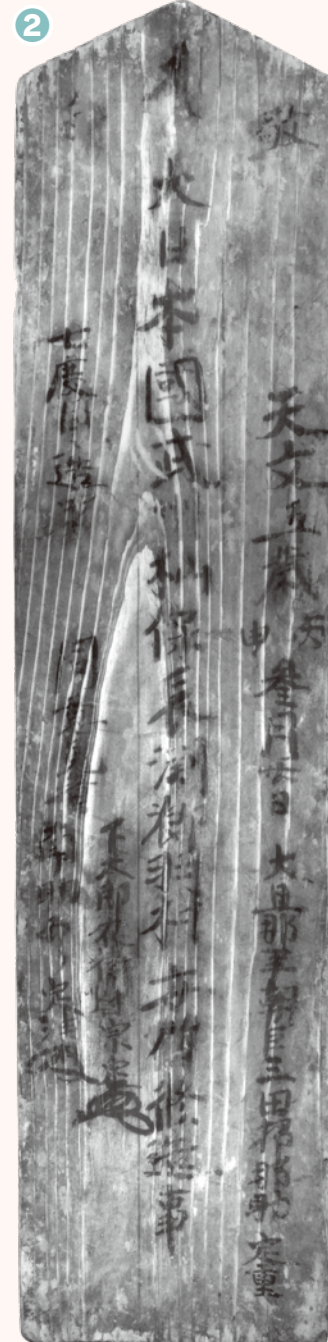
⑫ 現在のまいまいず井戸〈東京都指定史跡〉

中世の羽村市域

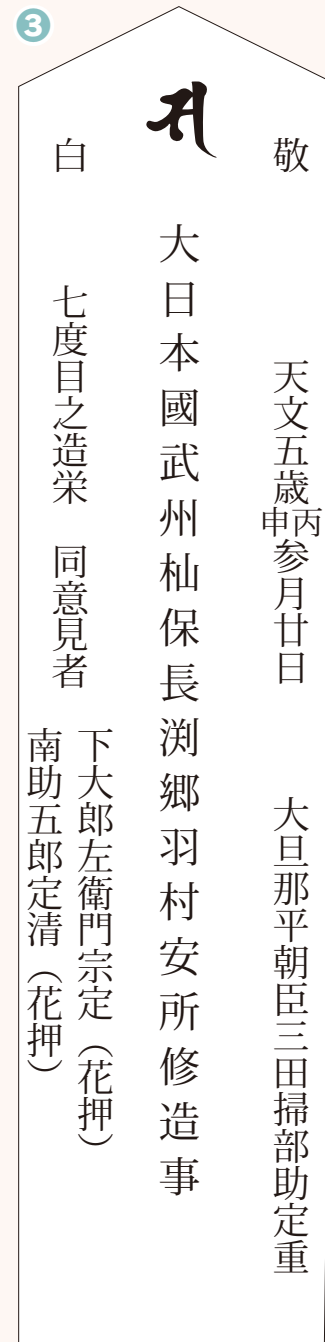
天文五年（1536）阿蘇神社修造棟札



① 写真画像

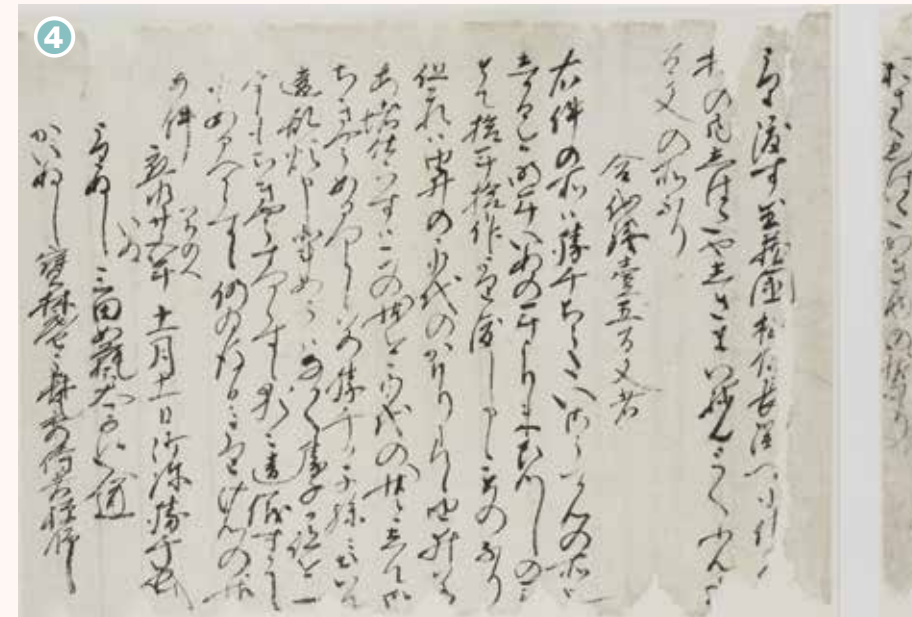


② 赤外線画像



③ 翻刻

天文五年（1536）の阿蘇神社修造棟札は、石造物を除くと市域に残された唯一の中世史料です。この銘文には、「武州杣保長洲郷羽村」に鎮座する「安所」（阿蘇）神社は、平将門の子孫を自称する三田氏によって天文五年（1536）に修造されたとあります。また、これが創立以来「七度目」の造営と記されていることから、阿蘇神社は天文五年を大きくさかのぼる由緒を持つと考えられます。



- ④ 三田勝千売券 [旧宝林寺文書]
応永二十五年（1418）11月11日
- ⑤ 十三仏板碑 寛正二年（1461）
- ⑥ 宝篋印塔〈市指定文化財〉
- ⑦ 五輪塔 天文三年（1534）

④は、応永25年（1418）に作成され、市域の地名・小作（「小佐久」）が初めて確認できる史料です。室町時代から「小作」という地名が存在し、三田氏の勢力範囲であった「杣保」に属していたことが分かります。この史料は、旧宝林寺文書として青梅市指定有形文化財に指定されています。

▼三田勝千売券 翻刻

「於さくしはたかき内の状なり」
うり渡す武蔵国杣保長洲郷小佐久村の内しはたやしき、まいねんとくぶん五
百文の所なり、
合代銭壹五百文者、
右、件所の八、勝千うたいさうてんの所也、
しかるを明年いぬの年より、来ひつしの年
まで、拾年拾作うり渡し申候ものなり、
但これ八由井の永代のかわりにて候、由井若
安堵仕らすハ、この状を永代の状として、御
ちきやうあるへく候、若勝千か子孫において
違乱煩申輩あらハ、なかく勝千か跡を一
字もちきやうすへからす候、猶々違儀すこし
もあるへからす候、仍為後日、うりけんの状
如件
つちのえ
応永廿五年十一月十一日沙弥勝千（花押）
いぬ
うりぬし 三田安芸太郎入道
かいぬし 宝林庵主梵秀侍者禪師



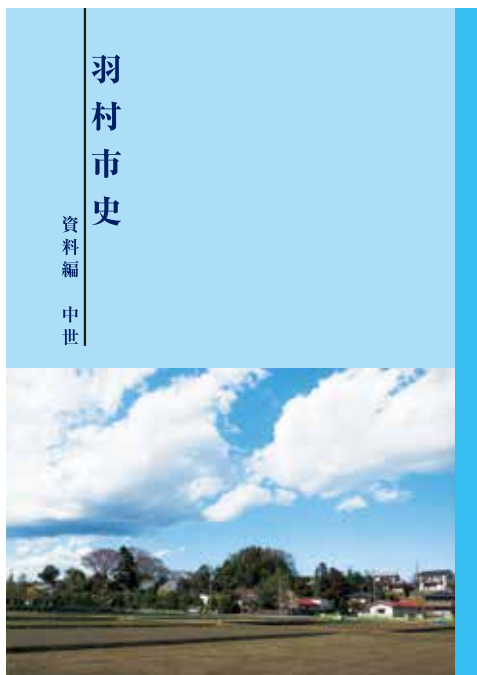
⑤



⑥



⑦



『羽村市史 資料編 中世』

A 4判 249 ページ

羽村市域を含む「^{そまのほ}杣保」一帯を支配していた三田氏などに関する史料や、市域にある石造供養塔を調査し、収録しました。

第一章 編年史料

鎌倉時代
南北朝時代
室町・戦国時代
年未詳中世文書
江戸時代
編年によらない史料

第二章 石造供養塔

石造供養塔類所在地一覧
板碑・緑泥片岩製品
宝篋印塔・五輪塔

『羽村市史 資料編 考古・中世補遺』

羽村市域で発掘された縄文時代の遺跡・遺物について、時代順に並べた土器の編年をもとに、当時の集落像を紹介しています。そのほか、古墳時代以降の遺物も収録しました。

市域で唯一の中世資料である阿蘇神社の棟札の追加調査結果なども、中世補遺として掲載しました。

第1部 考古

第1章 羽村市の遺跡

- 第1節 遺跡の発見と調査のあゆみ
- 第2節 羽村市の地形環境と遺跡

第2章 縄文時代

- 第1節 縄文時代の羽村
- 第2節 精進バケ遺跡
- 第3節 天王台遺跡
- 第4節 山根坂上遺跡
- 第5節 羽ヶ田上遺跡
- 第6節 縄文時代中期の集落景観と変遷
－山根坂上・羽ヶ田上遺跡－
- 第7節 竪穴住居址における土器の出土状況
－羽ヶ田上遺跡の事例から－

第3章 古墳時代以降

- 第1節 羽村市No. 3 遺跡
- 第2節 吉祥寺跡
- 第3節 阿蘇神社の中世瓦
- 第4節 羽村市No. 7 遺跡
- 第5節 まいまいず井戸

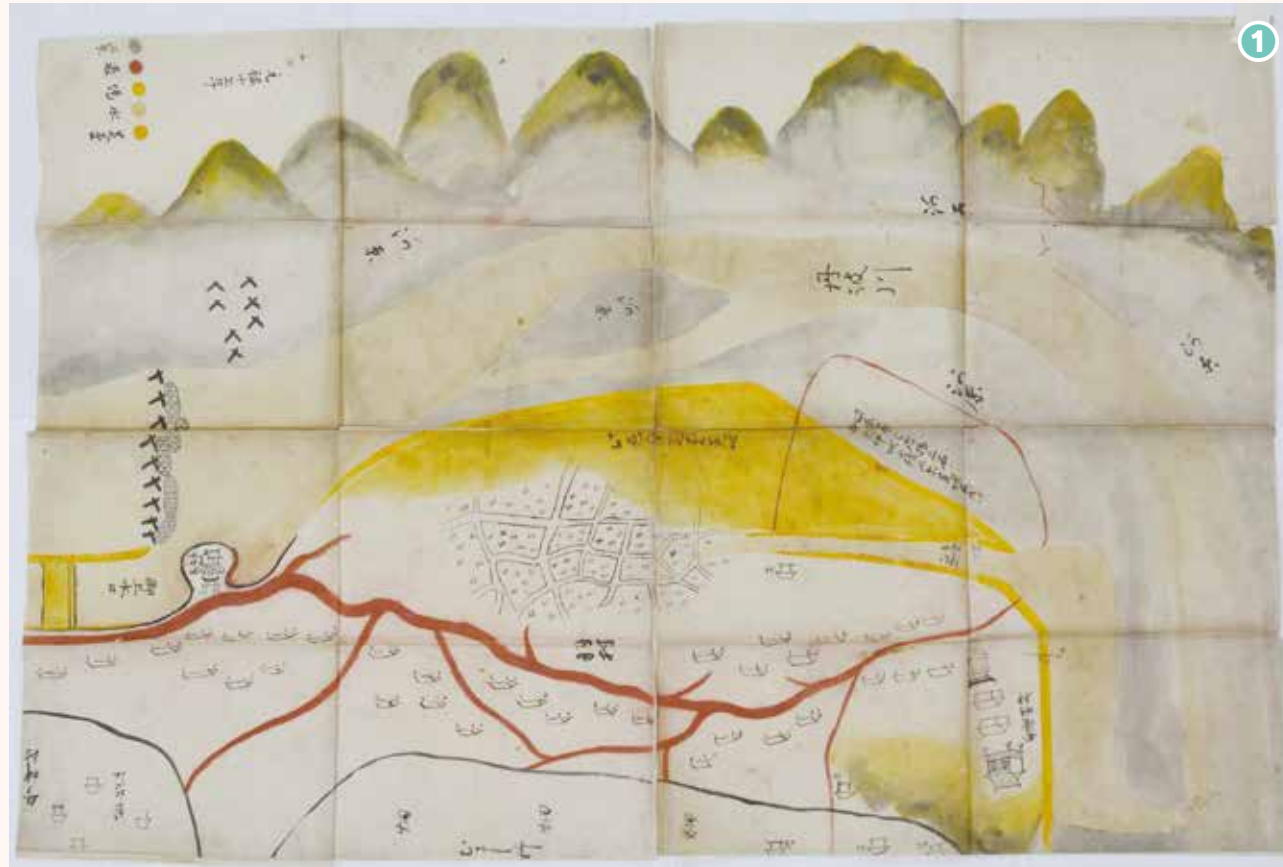
第2部 中世補遺

編年史料
阿蘇神社所蔵棟札類
石造供養塔

『羽村市史 資料編 近世』より

近世の羽村市域

近世の羽村市域 は む ら 羽村



① 元禄十五年(1702)羽村絵図

羽村市域は、近世には羽村・五ノ神・川崎村の三村で構成され、現在の市域とほぼ同じ範囲となっていました。その中で羽村は、現在の市域の西側約6割が村の範囲でした。

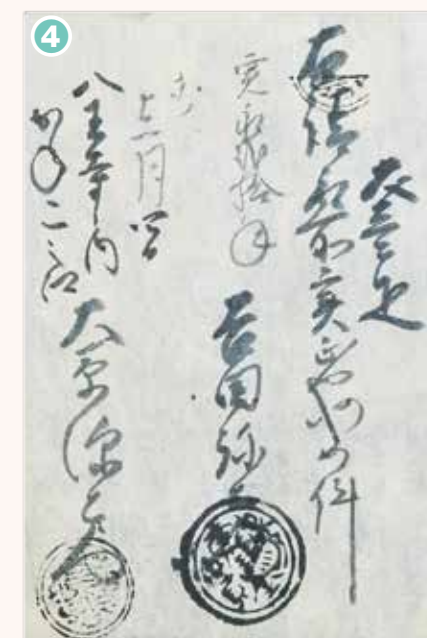
①の絵図は、阿蘇神社に所蔵されていた②の史料群のひとつで、羽村の南部分を描いたものです。「丹波川」と書かれた多摩川が流れ、対岸には草花丘陵が描かれています。また、市域で唯一の田地である根搦前の水田もみられ、阿蘇神社の近くを通過して多摩川から用水が引かれています。絵図下部には「むさし野」とあり、畑があったことが記されています。



② 阿蘇神社宮川家文書群



③ 尾張徳川家御定杭



④ 寛永二十年(1643)犬請取手形

江戸周辺の村は、領主による支配とは別に、将軍家や将軍御三家の鷹場としても設定されていました。羽村は、尾張徳川家の鷹場の西端に位置していたため、市内には鷹場の境界を示す杭が残っています。③の杭は下部分が欠けて読み取れませんが、「是從り東」が「尾張殿」の鷹場であることがわかります。鷹場内では狩猟の禁止などの制約を受けたほか、村人には人足の負担や諸品の納入などが課されていました。中には、鷹の餌となる動物を差し出す役目もありました。④には、幕府の鷹匠が犬一匹を受け取ったことが記されています。

近世の羽村市域 ご の か み む ら 五ノ神村



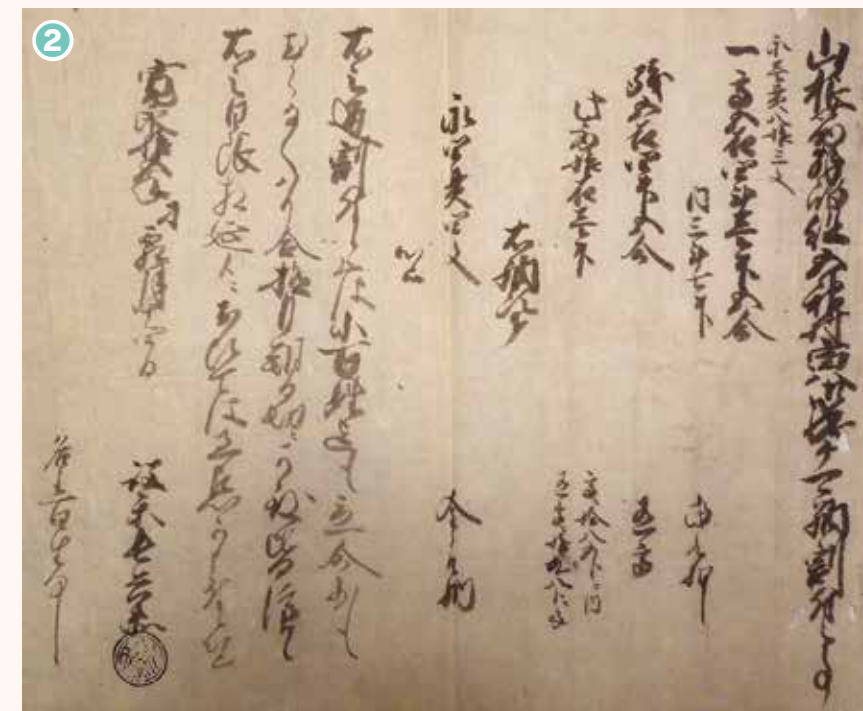
① 享保期カ 五ノ神村絵図

五ノ神村は羽村と川崎村の間に位置し、現在の市域の約一割を範囲としていたほか、羽村に数カ所の飛び地を有していました。

①の絵図の黄色の部分は畑、赤色の筋が道、藍色が新田を示しています。「新田」とは、田地だけではなく、新たに開発された耕作地のことをいいます。五ノ神村は、畑地だけの村でした。絵図の右下には、まいまいず井戸を示す赤いうずまきと、現在の五ノ神社である熊野宮が描かれています。

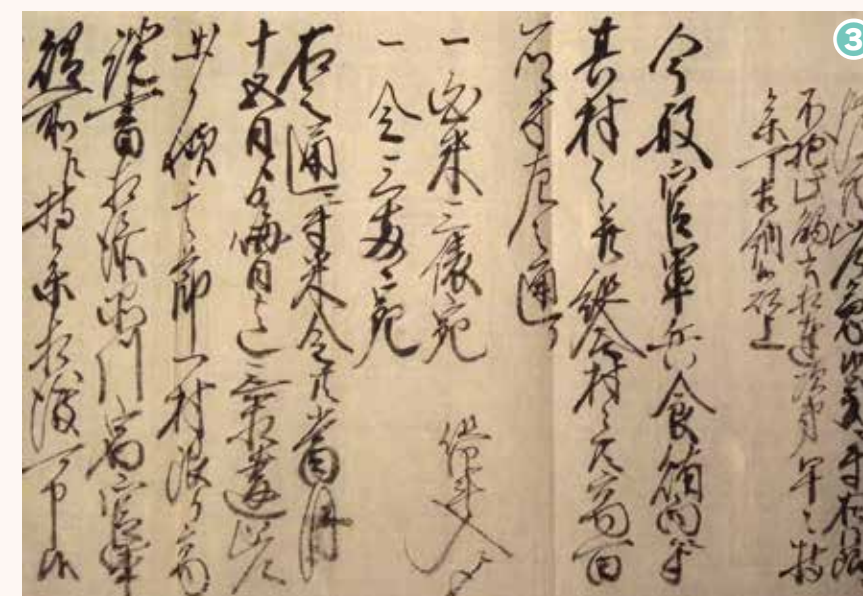


拡大図



② 寛永十五年(1638) 霜月五ノ神村年貢割付状

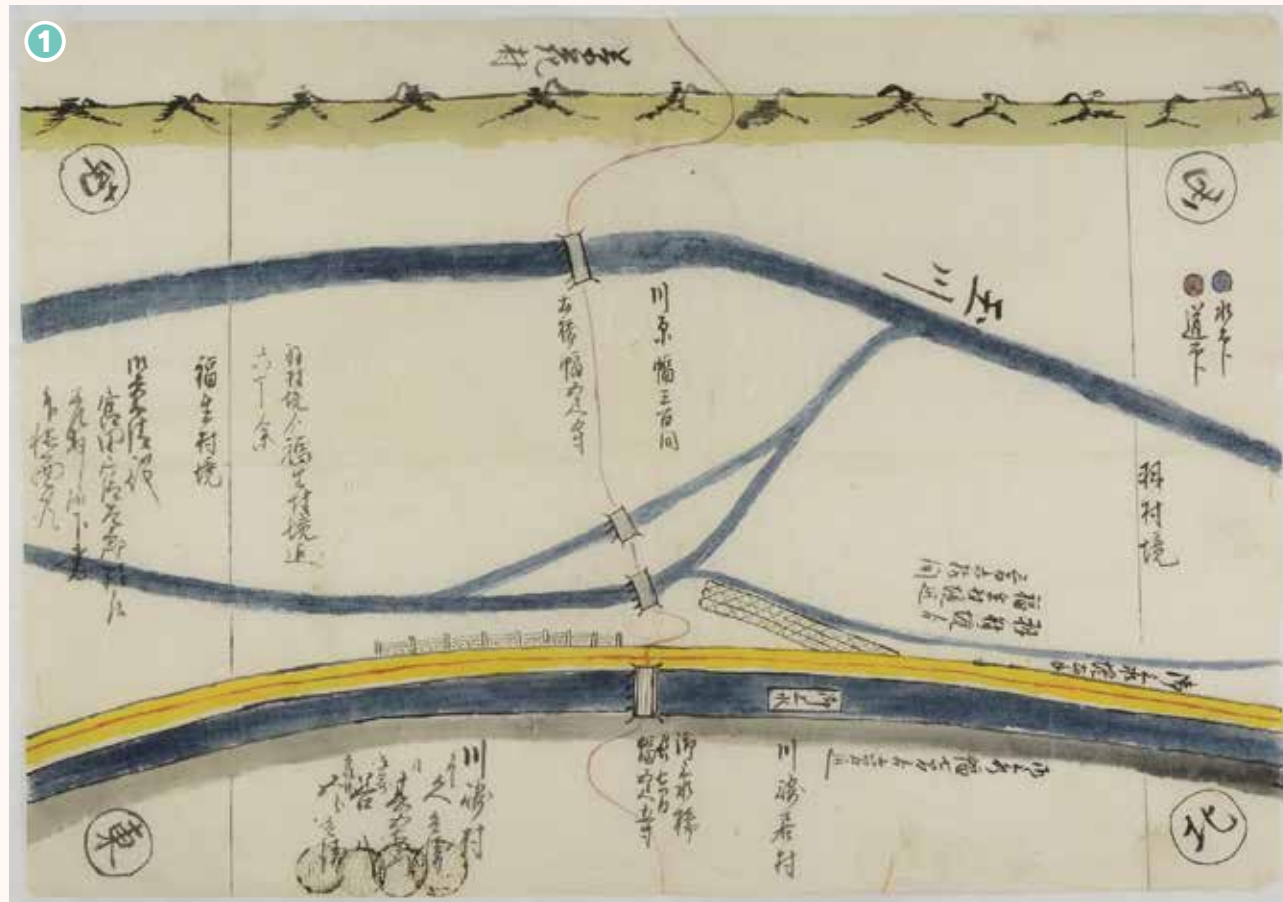
②は、現在確認できる五ノ神村最古の年貢割付状で、寛永15年(1638)のものです。貢割付状とは、領主から村へ毎年出された年貢の請求書の事です。名主が村人に年貢を割り振り、取り集めて領主へ納入しました。



③ 慶応四年(1868)四月 官軍の兵糧賄につき廻状

③は、幕末の戊辰戦争のときに江戸に入った「官軍」が、周辺の村々に兵糧の供出を命じた文書の写しです。五ノ神村を含む拝島村寄場組合は、村高100石につき、米3俵と金3両ずつの供出を命じられました。同じ時期には旧幕府勢力の振武軍からも軍資金を要求されるなど、多摩地域は新政府軍・旧幕府軍双方の軍事活動に巻き込まれ、翻弄されました。

近世の羽村市域 川崎村

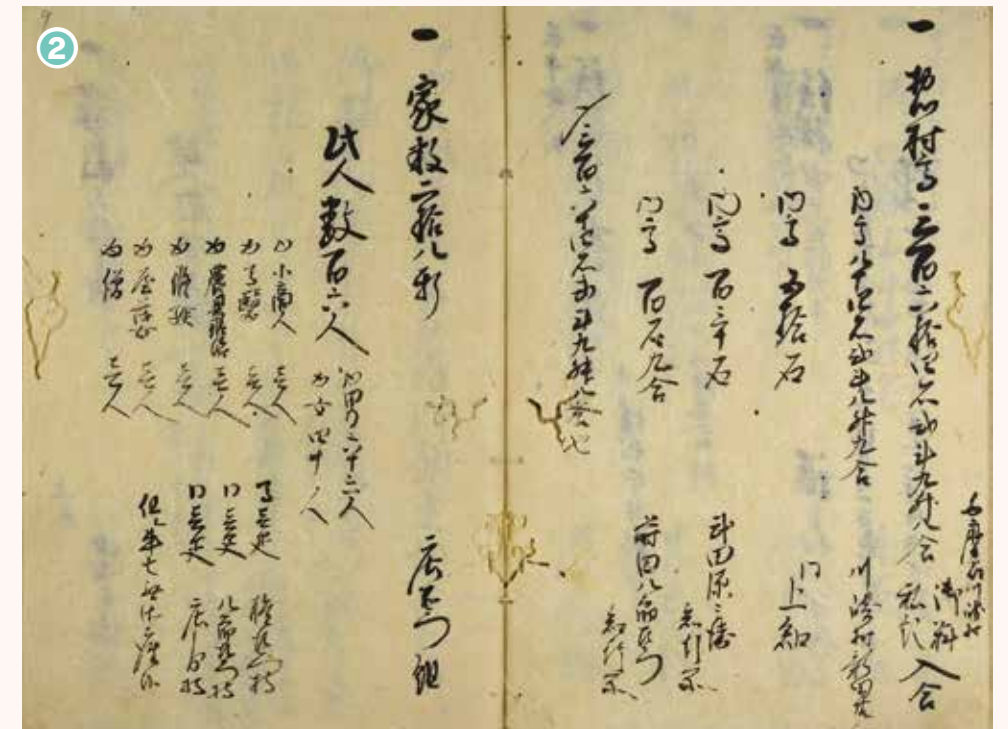


① 年末詳 川崎村玉川上水附近絵図

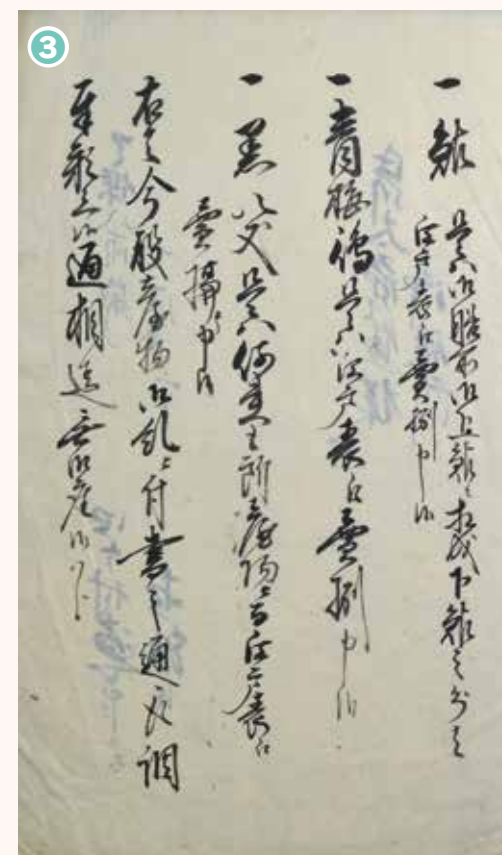
川崎村は現在の市域の東側約三割を範囲とし、幕府や複数の旗本によって分割して支配されていました。

①の絵図は、川崎村を通る多摩川と玉川上水を描いたものです。「御上水」とある玉川上水に沿って、黄色く描かれた「御上水堤土手」が築かれています。玉川上水の土手を守るための水制が、網目模様のように描かれた部分です。

多摩川は、水量が多い夏期には船による渡しが行なわれ、水量が少ない冬期には、絵図のように対岸まで仮橋がいくつか架けられていました。



② 寛政十一年(1799)七月 川崎村蒔田氏知行所村明細帳

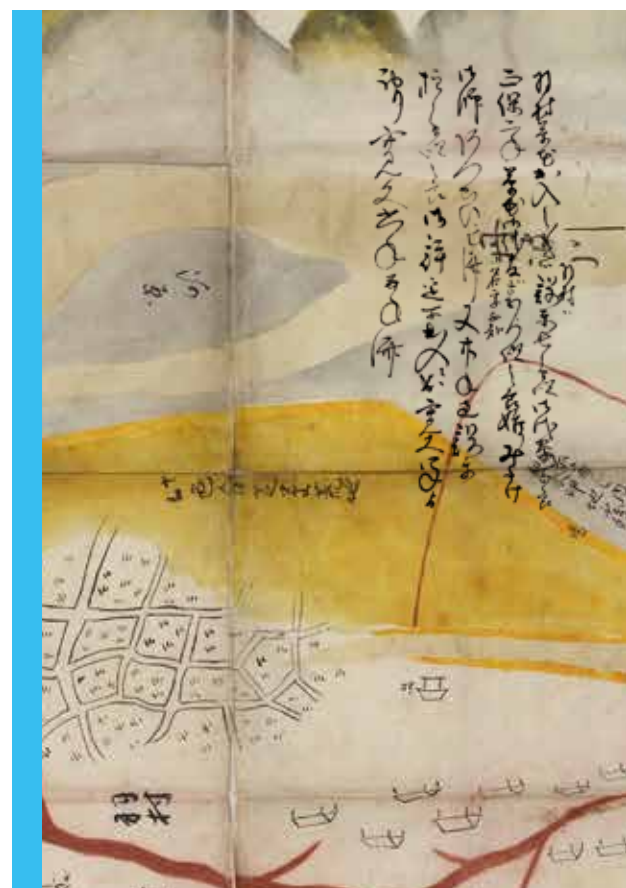
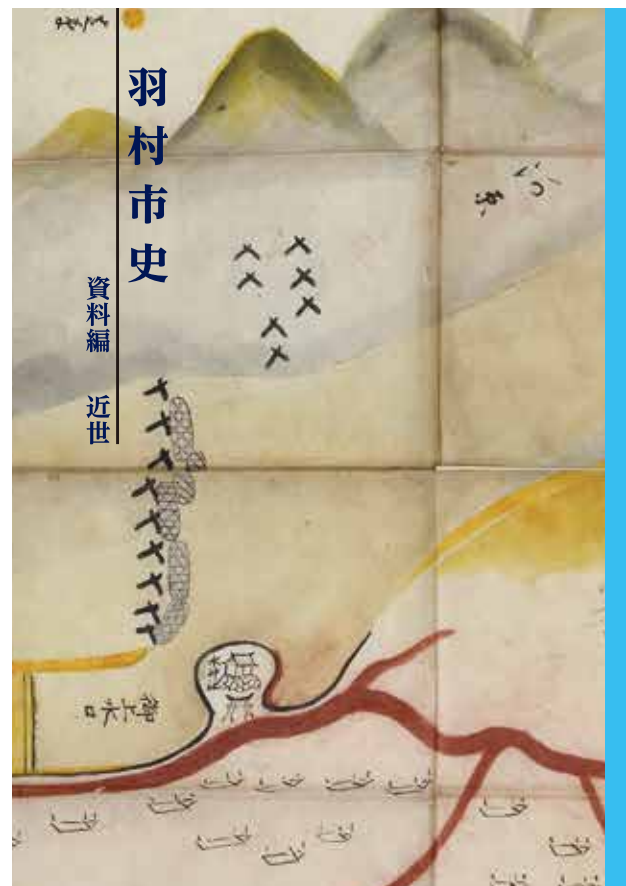


③ 天保八年(1837)十月 川崎村内産物調査につき請書

②は、川崎村のうち旗本蒔田氏の所領で作成された村明細帳の一部です。村の石高と、村人のうち農業以外に従事する人の数が記されています。当時の村には馬医や農具鍛冶職人、修験者などがいたことがわかります。村明細帳とは、領主が村の概況を把握するために提出させた帳簿で、現在の市勢要覧にあたります。村の地理や石高、人口・戸数、寺社、山林、水路、農作物などが記載されました。

③は、川崎村の幕府領で名主を務めた家に残された、産物調査に対する返信の文書です。村の産物として、鮎と織物を挙げています。多摩川の鮎には等級があり、「御上鮎」は将軍に献上され、「下鮎」は江戸市中へ流通していると説明されています。鮎が現金収入を得られる重要な産物であったことがうかがえる史料です。

『羽村市史 資料編 近世』



A 4判 306 ページ

江戸時代から明治時代の初めにかけての古文書や絵図を解説付きで紹介しています。他にも新出の史料を収録しています。

第一章 羽村地域の景観・開発

第一節 羽村 / 第二節 五ノ神村
第三節 川崎村

第二章 年貢にみる羽村地域

第一節 羽村 / 第二節 五ノ神村
第三節 川崎村

第三章 支配のしくみと領主

第一節 支配の変遷
第二節 幕府代官の村方支配
第三節 旗本領主の村方支配
第四節 鷹場支配と浪人もの組合
第五節 関東取締出役と拝島村寄場組合

第四章 村の行政のしくみ

第一節 村定 / 第二節 村役人
第三節 村方出入 / 第四節 その他村方書類

第五章 家と村人

第一節 村のようす / 第二節 戸口・相続

第六章 玉川上水と羽村堰

第一節 玉川上水と羽村堰の管理
第二節 羽村堰の普請

第七章 生業と交通・流通

第一節 市と産物 / 第二節 農間渡世
第三節 交通と往来

第八章 寺社と信仰

第一節 寺社 / 第二節 修験 / 第三節 信仰

第九章 社会生活と事件

第一節 家を出る人びと
第二節 迷惑行為と訴訟
第三節 悪化する治安と捕縛
第四節 村山騒動 / 第五節 災害

第十章 幕末維新期の羽村地域

第一節 政局と村々の負担
第二節 世直しと地域防衛
第三節 新政のはじまり
第四節 幕末維新期の記憶

別章 羽村陣屋日記と指田家日記

『羽村市史 資料編 近現代図録』より

近現代をみる

生業と産業



- ① 麦刈り 1960年代
- ② 農作業の合間 1960年代
麦刈りの途中で休憩を取っている様子。
右手には桑畑が見える。
- ③ 繭掻き 昭和前期
- ④ 蚕への桑くれ 1973(昭和48)年
- ⑤ 下田製糸工場 昭和初期

羽村市域では、古くから農業が主な生業で、農業の中心は麦類や陸稲などの畑作でした。明治から大正にかけて養蚕が盛んになり、台地上には桑畑が一面に広がりました。多くの農家では、繁忙期には一家総出で作業にあたりました。また、複数の製糸工場が操業し、大勢の女工が働いていました。

昭和になると、恐慌の煽りを受けて、養蚕業は衰退していきます。そのような中で、市域では昭和10年代に乳牛を導入し、農業振興を進めました。戦後、酪農をはじめ養豚・養鶏業などの畜産業が発展する一方、市街地の開発も進められました。昭和40年代以降、農業は野菜類と花卉類といった都市近郊農業への転換が図られていきました。

市域には古くから商店が集まる地域がいくつかあり、さまざまな商業に従事する人たちが暮らしてきました。また、身近なところに家やくらしの道具をつくる職人も多くいて、人々の日常生活を支えていました。



- ⑥ 牛の乳搾り 1940(昭和15)年
- ⑦ バタリー式鶏舎 1965(昭和40)年9月
- ⑧ デンマーク式豚舎 1961(昭和36)年
- ⑨ 東ヶ谷戸坂下通りの商店街 1950(昭和25)年
- ⑩ 下駄職人の作業風景 1974(昭和49)年7月
- ⑪ ブリキ職人の作業風景 1974(昭和49)年9月
- ⑫ 花卉栽培 1991(平成3)年

市街地開発と都市化

首都圏整備法に基づく市街地開発区域の指定を受け、羽村市域では昭和30年代より急速に都市化が進みました。日野自動車工業株式会社の羽村進出をはじめとして、各種工場が羽村市域へ進出しました。

また、道路や公園が整備され、橋梁や町営住宅の建設も進められ、市域の景観は大きく変化していきました。

都市化に伴い、駅の利用者も増えていきました。駅前にはロータリーが設けられ、大型スーパーや商業ビルが立ち並び、賑わいを見せていきます。

昭和36年(1961)から給水を開始した上水道は、市内の地下水を水源として、現在も独自に水道事業が運営されています。



2



5



1



3



4

- 1 日野自動車工場と開発された市街地 1988(昭和63)年
- 2 神明台土地区画整理事業 1966(昭和41)年1月
- 3 武蔵野公園 1967(昭和42)年
- 4 富士見公園の造成 1971(昭和46)年
- 5 産業道路 1988(昭和63)年



6



7



8



9



10



11



12



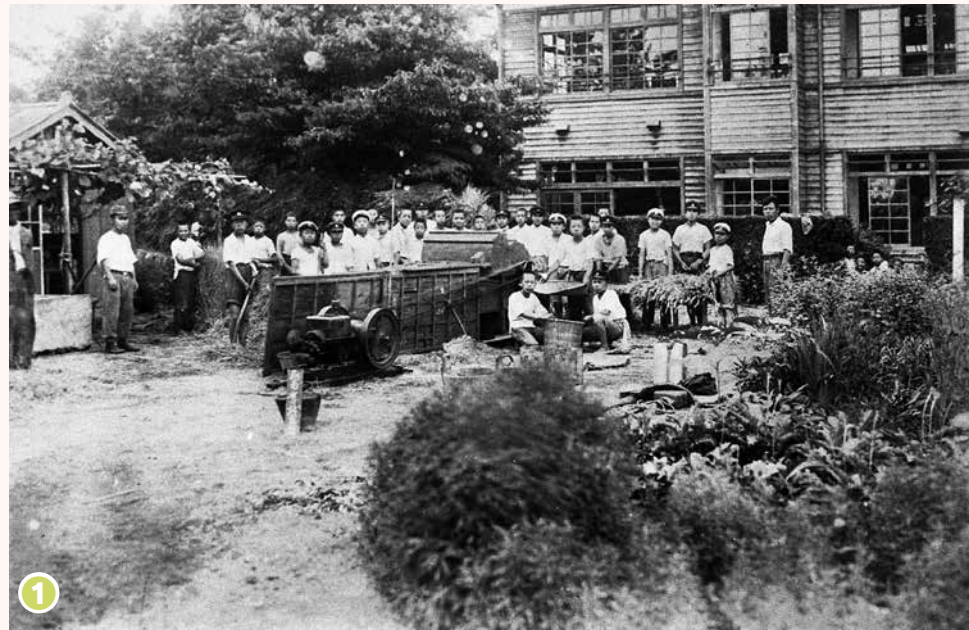
13



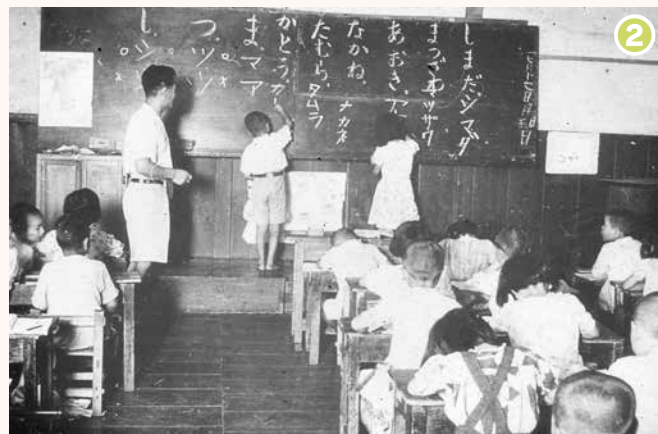
14

- 6 貸家住宅 1965(昭和40)年5月
- 7 町営(現市営)住宅 1985(昭和60)年
- 8 公団(現UR都市機構)羽村団地 1988(昭和63)年 都市部からの転入者が増え、貸家の建設も進んだ。
- 9 羽村駅西口バス乗り場 1968(昭和43)年頃
- 10 現在の羽村駅東口前 2017(平成29)年
- 11 小作駅前 1960年代
- 12 現在の小作駅 2017(平成29)年11月
- 13 完成した羽村大橋 1975(昭和50)年7月1日
- 14 水道事務所 1998(平成10)年

教育と文化



- ① 校舎
(西多摩尋常高等小学校)
1936(昭和 11)年
- ② 授業のようす
(西多摩小学校)
1950(昭和 25)年
7月 17 日
- ③ 社会科副読本
『伸びゆく村』
1949(昭和 24)年
戦後、都から社会科教育の実
験校として指定され作成した
「西多摩プラン」を実践する
ための社会科副読本。
- ④ プール開き
(羽村東小学校)
1965(昭和 40)年
6月 29 日
- ⑤ 授業のようす
(富士見小学校)
1973(昭和 48)年 5 月
- ⑥ 開校式(松林小学校)
1975(昭和 50)年 4 月



羽村市域の教育は、明治時代に西多摩学校へ赴任した佐々蔚や、川崎村で校長を務めた岡部直清が地域の教育に尽力したことでその礎が築かれました。

戦後は、今井譽次郎を中心とする教員たちが、住民の協力を得ながら地域を調査し、昭和 23 年(1948)に「社会科西多摩案農村試案」(西多摩プラン)を完成させました。

その後人口の増加とともに学校数が増えていき、現在は市内に 7 校の小学校と 3 校の中学校が設置されています。

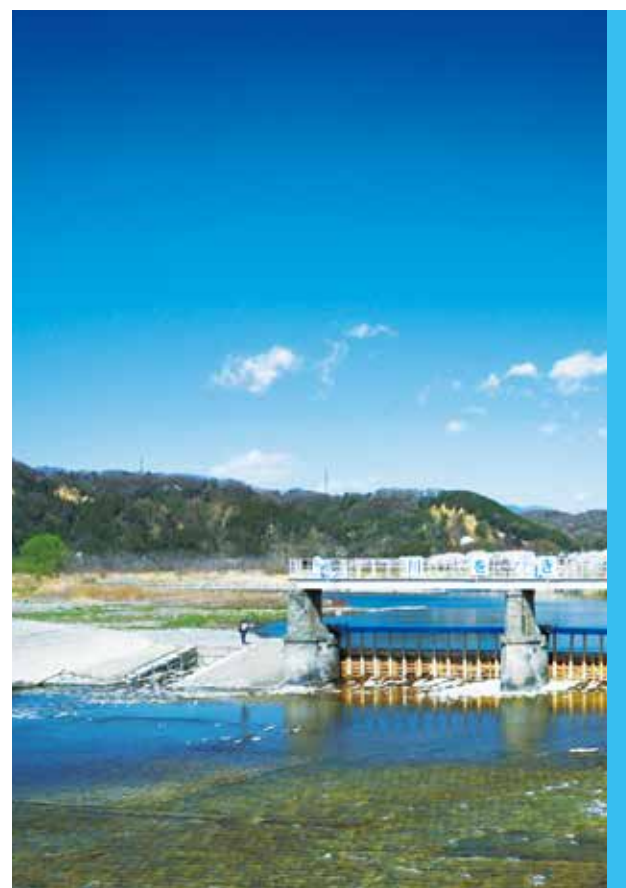
昭和 50 年(1975)に開設された羽村町消費者センターは、町立では首都圏で初、全国的に見ても先進的な取り組みで、住民が全面的に運営にあたり、消費者運動が活発に行われていました。

また、市民による社会教育活動の広がりを受けて、公民館などの教育・生涯学習施設が整備されていきました。羽村市となつてからは、生涯学習センターゆとろぎや羽村市図書館が開館しました。これらの施設は、現在に至るまで文化や市民活動の中心として市民に利用されています。



- ⑦ 羽村町消費者センター 1974(昭和 49)年
- ⑧ 動物公園 2011(平成 23)年 7 月
- ⑨ 郷土博物館
- ⑩ 羽村市生涯学習センターゆとろぎ 2017(平成 29)年 8 月
- ⑪ 羽村市図書館 2017(平成 29)年 8 月

『羽村市史 資料編 近現代図録』



A4判 327ページ

明治時代以降の羽村の景観や産業、教育、鉄道などの、暮らしの変化やあゆみをテーマ別に収録した約680点の写真資料で紹介しました。

第1章 羽村のいま・むかし [地形環境と景観]

- 第1節 羽村の地形と街並み
- 第2節 地域の移り変わり
- 第3節 地名の移り変わり

第2章 台地と川のまち・羽村 [生業と産業]

- 第1節 農業の変化
- 第2節 養蚕・製糸と蚕種の製造
- 第3節 養豚と養鶏
- 第4節 地域の産業
- 第5節 多摩川と玉川上水
- 第6節 観光と水防

第3章 進取のまち・羽村 [教育と文化]

- 第1節 子どもと学校
- 第2節 地域を支える住民の活動
- 第3節 市民の学びと文化
- 第4節 地域の文化と文化財
- 第5節 文豪・中里介山

第4章 変貌するまち・羽村 [市街地開発と都市化]

- 第1節 青梅鉄道と青梅線
- 第2節 都市基盤の整備
- 第3節 工場誘致と道路交通
- 第4節 村から町へ、そして市へ
- 第5節 公共施設の整備
- 第6節 ごみ処理と環境問題

第5章 暮らしのまち・羽村 [くらしの変化]

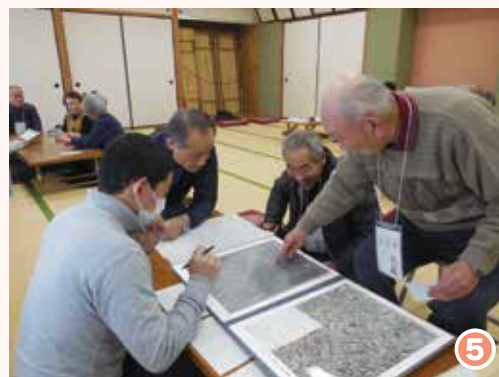
- 第1節 消防団と青年団
- 第2節 出征兵士と銃後の守り
- 第3節 横田基地と市民
- 第4節 東京オリンピックと羽村
- 第5節 変わりゆく暮らしの風景

『羽村市史 資料編 民俗』より

羽村のくらし

聞き取り調査と実地調査

聞き取り調査



民俗調査では、はじめに聞き取り調査を行いました。町内会・自治会にご協力いただき、各地区の会館に集まっていた方達から、市域で受け継がれてきた人びとのくらし全般について話を伺いました。その後、各分野で多くの体験や記憶をお持ちの方に、個別に話を伺う機会ももち、300名を超える市民のみなさまのご協力のもと、調査を行いました。

- ① 宮地町内会
- ② 田ノ上第一町内会
- ③ 美原町内会
- ④ 五ノ神町内会
- ⑤ 小作台東内会
- ⑥ 上水通り町内会
- ⑦ 五ノ神地区
- ⑧ 小作本町地区

実地調査

家や地域、神社や寺院での行事について、実地調査を行いました。
おほほえ大祓の行事は、市域の各神社で6月と12月、あるいは12月にだけ行われます。6月は夏越おほほえ大祓、12月は年越おほほえ大祓といい、どちらも災厄除けを祈願します。

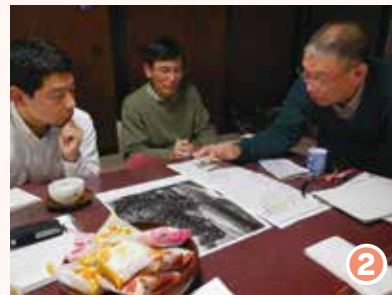


- ⑨ 人形をまとめて茅で包む。
- ⑩ 調査風景(人形を包む作業)
- ⑪ 調査風景(供物の準備作業)
- ⑫ 調査風景
(神職がお祓いした後、人形を包んだ茅を流しに行く)

くらしの調査

〔住生活〕カシグネ

カシグネは、敷地の境や建物の周りに植えられたカシの生垣です。市域の都市化が進む昭和30年代以降、家屋の改築や建て替えが進み、カシグネは徐々にその数を減らしました。調査は、自然を担当する部会と、民俗を担当する部会が合同で行いました。



② 調査風景(聞き取り調査の様子)



③④ 調査風景(屋敷地の周囲に植栽されたカシグネを調査する様子)



① カシグネの組み方

〔食生活〕クサノハナ餅

クサノハナ餅は、春祭りなどに作ります。かつては各家で作られましたが、今では店で購入することが多くなりました。



⑤ 庭で草(ヨモギ)を摘む

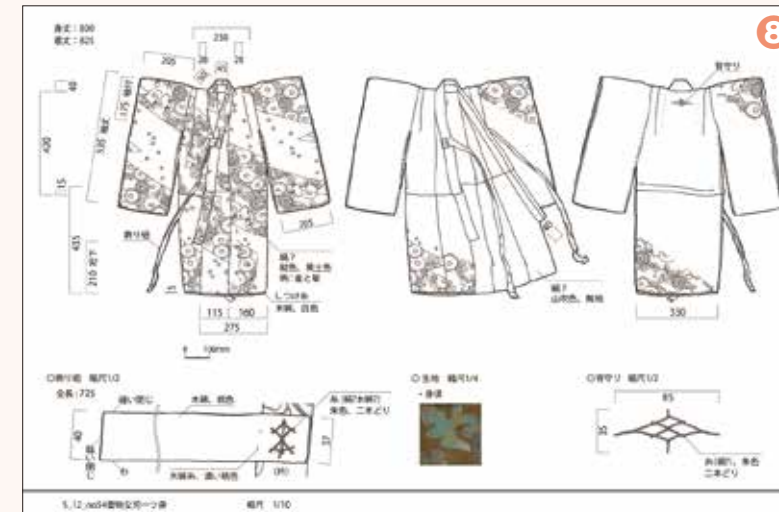


⑥ クサノハナ餅は粳米の粉である上新粉で作る



⑦ 草を練りこんだ生地で餡子を包む

〔衣生活〕着物



一つ身とは、背縫いなしで仕上げる着物で、二才位までの子どもが着ます。

寸法を測り、柄、縫い取りや仕立て方などを図におこすことで、説明文や写真だけではわかりづらい、さまざまな情報を伝えることができます。

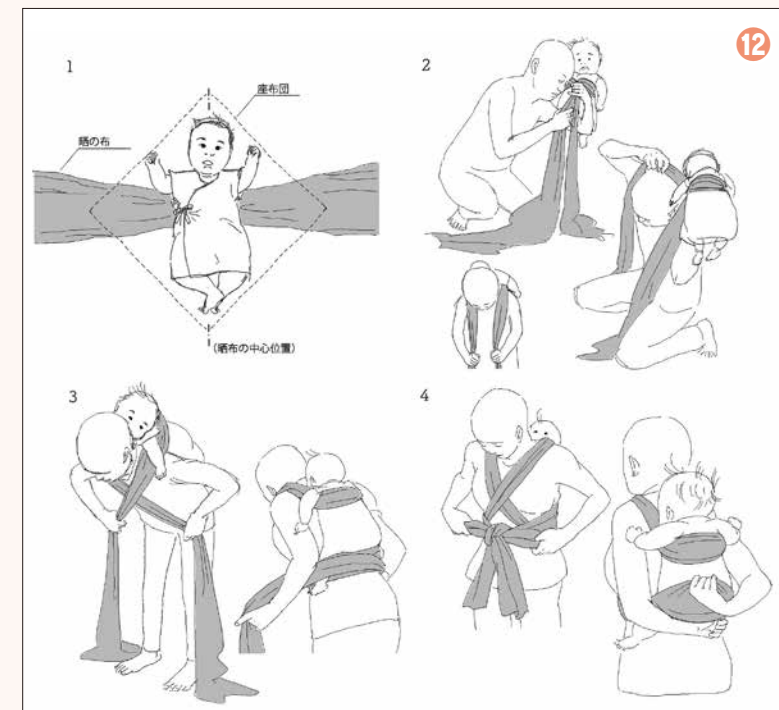


⑧ 図・女児一着の着物

⑨⑩ 作業風景(実測や撮影で記録をする)

⑪ 資料のラフスケッチ

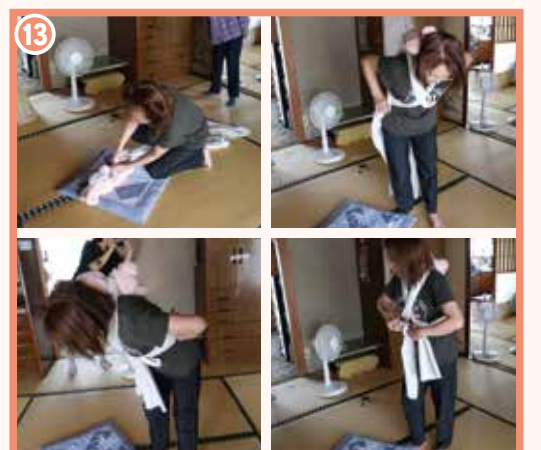
〔通過儀礼〕負ぶい紐



⑫ 図・負ぶい紐の使い方

⑬ 調査風景

かつては、晒さらしを用いて赤子を負ぶいました。負ぶうのは母親や祖父母にかぎらず、兄弟の上の子達は、学校から帰ると弟妹を負ぶって遊びに出たりしました。調査では、晒で赤子を負ぶった経験のある方に実演してもらい、その動画から、負ぶう時にポイントとなる動作を図におこしました。



⑬ 調査風景

春祭り

神社

羽村市域で行われる春祭りの原点は、各神社で行われていた春祭りです。それぞれの氏子域で行われていた春祭りに、町内会で催す春祭りが加わり、市域全体で日程を統一して行われるようになりました。また、昭和25（1950）年に始まった桜まつりが、その後チューリップまつりを加え「花と水のまつり」として同時期に開催されています。



① 六町山車曳き合わせ H29(2017).04.08



- ② 加美町の神輿 H29(2017).04.09
- ③ 五ノ神の旧山車 最後の曳行 H29(2017).04.08
- ④ 奈賀町の宮入り H30(2018)04.08
- ⑤ 東町の万灯 H29(2017).04.09
- ⑥ 川崎の神輿の練り込み H30(2018).04.08
- ⑦ 小作本町の狭い路地での山車の曳行 H30(2018)04.08

町内会



- ⑧ 富士見平第一町内会 H30(2018)04.08
- ⑨ 緑ヶ丘三丁目町内会 H30(2018)04.07
- ⑩ 東台町内会 H30(2018)04.08



⑪ 緑ヶ丘第一・緑ヶ丘第二・緑ヶ丘西町内会の三町山車曳き合わせ H30(2018)04.08

『羽村市史 資料編 民俗』



A 4判 335 ページ

羽村市域の人々の暮らしについて、集落の成立や地域社会のしくみ、生業、衣食住、年中行事、信仰や祭り、昔話などを収録しました。とくに、市域の特徴として多摩川とのかかわりや春祭りについて紹介しています。

第一部 羽村市の暮らしと民俗

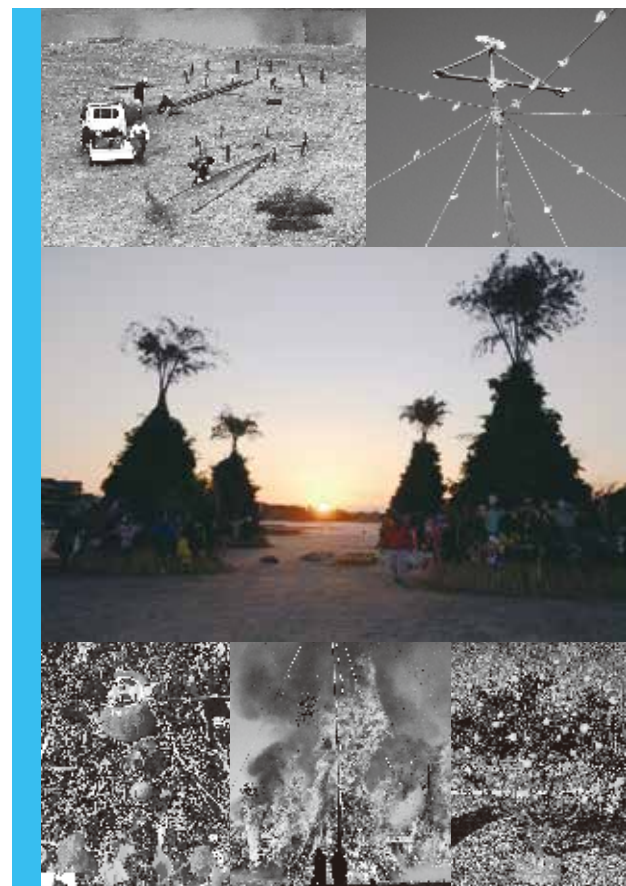
- 第一章 総説 一羽村市とそのとりまく環境一
- 第二章 社会と暮らし
- 第三章 暮らしと生業
- 第四章 暮らしの中の衣食住
- 第五章 季節と行事
- 第六章 人の一生
- 第七章 社寺と信仰
- 第八章 口承文芸

第二部 多摩川をめぐる民俗

- 第一章 多摩川の自然
- 第二章 多摩川と川漁
- 第三章 多摩川をめぐる遊びと言葉

第三部 羽村の春祭り

- 第一章 祭りの概要
- 第二章 平成二九・三〇年の春祭りの記録
- 第三章 神輿と祇園囃子
- 第四章 山車と祭礼囃子
- 第五章 羽村の春祭りの特徴



羽村市史編さん事業のあゆみ 2

市史編さん事業のこれまでの経過

平成 25 年度

羽村市教育委員会に市史編さん担当を設置
羽村市史編さん本部を設置

平成 26 年度

羽村市企画総務部に市史編さん室を設置
羽村市史編さん委員会を設置
市史編さん部会の活動がスタート

平成 29 年度

『羽村市史 資料編 中世』を発行
『羽村市史 資料編 近現代図録』を発行

平成 30 年度

『羽村市史 資料編 近世』を発行
『羽村市史 資料編 自然』を発行

令和 2 年度

『羽村市史 資料編 考古・中世補遺』を発行
『羽村市史 資料編 民俗』を発行

羽村市史編さん部会

(令和 3 年 10 月 7 日現在)

原始・古代・中世担当部会(第 1 部会)

部会長 深澤靖幸
副部会長 渋谷芳浩
部会員 則竹雄一 黒尾和久

近世担当部会(第 2 部会)

部会長 白井哲哉
副部会長 橋本直子
部会員 靱矢嘉史 児玉憲治 花木知子

近現代担当部会(第 3 部会)

部会長 浜田弘明
副部会長 栗田尚弥
部会員 沖川伸夫 金子 淳 松崎 稔

自然担当部会(第 4 部会)

部会長 白井正明
副部会長 赤坂郁美
部会員 高岡貞夫 宇津川喬子

民俗担当部会(第 5 部会)

部会長 菊池健策
副部会長 山崎祐子
部会員 紙谷威廣 堤 涼子
松田香代子 樋口潤一 (敬称略)





『羽村市史 資料編』 好評販売中です

『中世』『近現代図録』（平成 29 年度刊行）
『近世』『自然』（平成 30 年度刊行）
『考古・中世補遺』『民俗』（令和 2 年度刊行）
価格 各巻とも 1 冊 2000 円（税込み）

既刊 6 巻



販売場所

●羽村市役所 1 階総合案内
（平日午前 8 時 30 分～午後 5 時）

●羽村市郷土博物館
（午前 9 時～午後 5 時
※祝日を除く月曜日休館）

※郵送でもお買い求めいただけます。
羽村市史編さん室までお問い合わせください。
TEL 042-555-1111 内線 365

羽村市役所 1 階市政情報コーナー、
羽村市役所 3 階市史編さん室、羽
村市郷土博物館、羽村市図書館で
は直接ご覧いただくこともできます。

写真図表一覧

トピックス	写真 番号	資料編	資料編掲載番号	所蔵・出典等
自然①	1-1	自然	図 4-5	国土地理院「地理院地図」に 加筆 市史編さん室作成
	1-2			
	1-3	自然	図 4-3(b)	
	1-4	自然	図 4-3(d)	
	1-5	自然	図 4-3(e)	
	1-6	自然	図 4-3(f)	
	1-7			調査時記録
	1-8			調査時記録
自然②	2-1	自然	図 10-13	
	2-2	自然	図 10-23	
	2-3	自然	図 10-9	国土地理院「地理院地図」に 加筆 調査時記録
	2-4			
	2-5	自然	図 4-18(b)	
	2-6			調査時記録
	2-7	自然	図 4-18(a)	
	2-8			調査時記録
自然③	2-9	自然	図 3-14	
	3-1	自然	16 章扉	
	3-2	自然	図 16-7	国土地理院「地理院地図」に 加筆
	3-3	自然	図 16-16	
	3-4			調査時記録
	3-5	自然	図 16-8(a)	
	3-6	自然	図 16-8(c)	
	3-7	自然	図 16-8(d)	
	3-8	自然	図 16-8(f)	
	3-9	自然	図 16-8(e)	
	3-10	自然	図 16-8(h)	
考古①	3-11	自然	図 16-20(a)	
	1-1	考古・中世補遺	写真 1-2	羽村市郷土博物館
	1-2	考古・中世補遺	写真 2-121	羽村市郷土博物館
	1-3	考古・中世補遺	写真 2-127	羽村市郷土博物館
	1-4	考古・中世補遺	写真 1-3	C.T. キーリ
	1-5	考古・中世補遺	写真 1-4	C.T. キーリ
	1-6	考古・中世補遺	写真 1-5	羽村市郷土博物館
	1-7	考古・中世補遺	写真 2-303	羽村市郷土博物館
	1-8	考古・中世補遺	口絵 1	羽村市郷土博物館
	1-9	考古・中世補遺	写真 2-350	羽村市郷土博物館
	1-10	考古・中世補遺	写真 2-434	羽村市郷土博物館
考古②	2-1	考古・中世補遺	図 1-1	国土地理院「地理院地図」に 加筆
	2-2	考古・中世補遺	写真 2-117	羽村市郷土博物館
	2-3	考古・中世補遺	写真 2-72	羽村市郷土博物館
	2-4	考古・中世補遺	写真 2-77	羽村市郷土博物館
	2-5	考古・中世補遺	口絵 6	羽村市郷土博物館
	2-6	考古・中世補遺	口絵 2	羽村市郷土博物館
	2-7	考古・中世補遺	口絵 9	羽村市郷土博物館
	2-8	考古・中世補遺	図 2-291	
考古③	3-1	考古・中世補遺	写真 3-1	個人所蔵
	3-2	考古・中世補遺	写真 3-6	
	3-3	考古・中世補遺	図 3-18(63)	遺物：羽村市郷土博物館
	3-4	考古・中世補遺	写真 3-7	羽村市郷土博物館
	3-5	考古・中世補遺	写真 3-8	羽村市郷土博物館
	3-6	考古・中世補遺	315 ページ (P2)	阿蘇神社
	3-7	考古・中世補遺	315 ページ (P16)	阿蘇神社
	3-8	考古・中世補遺	318 ページ (P60)	阿蘇神社
	3-9	考古・中世補遺	図 3-8(46)	
	3-10	考古・中世補遺	318 ページ (P64)	阿蘇神社
	3-11	考古・中世補遺	318 ページ (P65)	阿蘇神社
	3-12	考古・中世補遺	写真 3-16	
中世①	1-1	考古・中世補遺	(381)6 ページ	阿蘇神社
	1-2	考古・中世補遺	(381)6 ページ	阿蘇神社
	1-3	考古・中世補遺	(381)6 ページ	
	1-4	中世	史料 53	青梅市郷土博物館
	1-5	中世	229 ページ	羽村市郷土博物館
	1-6	中世	240 ページ	
	1-7	中世	243 ページ	
近世①	1-1	近世	口絵 1・資料 1	阿蘇神社
	1-2	近世	口絵 11	阿蘇神社
	1-3	近世	口絵 9・67 ページ	松本神社
	1-4	近世	口絵 8・資料 53	羽村市郷土博物館
近世②	2-1	近世	口絵 2・資料 7	渡邊時三家
	2-2	近世	資料 34	渡邊時三家
	2-3	近世	資料 182	渡邊時三家
近世③	3-1	近世	口絵 3・資料 22	新井家
	3-2	近世	口絵 6・資料 77	新井家
	3-3	近世	資料 99	羽村市郷土博物館
近現代①	1-1	近現代図録	2-1-2-2	羽村市郷土博物館
	1-2	近現代図録	2-1-2-3	羽村市郷土博物館
	1-3	近現代図録	2-2-2-4	羽村市郷土博物館
	1-4	近現代図録	2-2-3-3	羽村市郷土博物館
	1-5	近現代図録	2-2-4-4	羽村市郷土博物館
	1-6	近現代図録	2-3-4-4	『目で見える羽村 100 年』
	1-7	近現代図録	2-3-5-3	羽村市広報広聴課
	1-8	近現代図録	2-3-2-1	『目で見える羽村 100 年』
	1-9	近現代図録	2-4-2-1	羽村市郷土博物館
	1-10	近現代図録	2-4-2-3	羽村市広報広聴課
	1-11	近現代図録	2-4-2-5	羽村市広報広聴課
	1-12	近現代図録	2-1-5-6	『羽村市市勢要覧』（平成 3 年）
近現代②	2-1	近現代図録	4-3-2-1	『はむら '85 羽村町町勢要覧』
	2-2	近現代図録	4-2-1-4	羽村市広報広聴課
	2-3	近現代図録	4-2-2-1	羽村市広報広聴課
	2-4	近現代図録	4-2-2-3	『はむら '71』
	2-5	近現代図録	4-2-3-5	『はむら HAMURA'88』
	2-6	近現代図録	4-3-3-3	羽村市広報広聴課
	2-7	近現代図録	4-3-3-6	『はむら '85 羽村町町勢要覧』
	2-8	近現代図録	4-3-3-5	『はむら HAMURA'88』
	2-9	近現代図録	4-3-5-4	『目で見える羽村 100 年』
	2-10	近現代図録	1-2-2-3	
	2-11	近現代図録	1-2-2-4	羽村市郷土博物館
	2-12	近現代図録	4-1-4-6	
近現代③	2-13	近現代図録	4-2-4-5	『目で見える羽村 100 年』
	2-14	近現代図録	4-2-5-3	『ガイドブックはむら』
	3-1	近現代図録	3-1-2-1	『目で見える羽村 100 年』
	3-2	近現代図録	3-1-3-3	羽村市郷土博物館
	3-3	近現代図録	3-1-3-4	羽村市郷土博物館
	3-4	近現代図録	3-1-5-5	羽村市広報広聴課
	3-5	近現代図録	3-1-5-8	羽村市広報広聴課
	3-6	近現代図録	3-1-4-5	羽村市広報広聴課
	3-7	近現代図録	3-2-2-5	羽村市広報広聴課
	3-8	近現代図録	4-5-6-5	
	3-9	近現代図録		羽村市郷土博物館
民俗①	3-10	近現代図録	4-5-1-4	
	3-11	近現代図録	4-5-2-2	
	1-1			調査時記録
	1-2			調査時記録
	1-3			調査時記録
	1-4			調査時記録
	1-5			調査時記録
	1-6			調査時記録
	1-7			調査時記録
	1-8			調査時記録
	1-9	民俗	口絵 38	
	1-10			調査時記録
民俗②	1-11			調査時記録
	1-12			調査時記録
	2-1	民俗	写真 1-4-42	
	2-2			調査時記録
	2-3			調査時記録
	2-4			調査時記録
	2-5	民俗	写真 1-4-37	
	2-6			調査時記録
	2-7	民俗	写真 1-4-37	
	2-8	民俗	図 1-6-1	
	2-9			調査時記録
	2-10			調査時記録
民俗③	2-11			調査時記録
	2-12	民俗	図 1-6-2	
	2-13			調査時記録
	3-1	民俗	口絵 51	影島孝（日本人形文化研究所 研究員）撮影
	3-2	民俗	写真 3-2-26	
	3-3	民俗	写真 3-2-17	
	3-4	民俗	写真 3-2-25	
	3-5	民俗	写真 3-2-5	
	3-6	民俗	写真 3-2-12	
	3-7	民俗	写真 3-2-36	
	3-8	民俗	写真 3-2-44	
	3-9	民俗	写真 3-2-40	
	3-10	民俗	写真 3-2-42	
	3-11	民俗	口絵 56	

編集後記

市制施行 30 周年の記念誌を刊行するにあたり、現在、取り組みを進めている市史編さん事業の成果を用いて羽村市のあゆみをたどってみてはどうか、というアイデアのもとで編集作業はスタートしました。

平成から令和にかけての 30 年間は市史の区分では近現代として捉えられ、「羽村市史資料編 近現代図録」で多くの写真とともに紹介されています。そこにも記したとおり、羽村市のあゆみは市制施行以前に起こった様々な出来事と無関係なわけではありません。それは過去の人びとのくらしや社会情勢などが複雑に絡みあいながら、今日まで綿々と刻まれ続けてきたものです。

時代の移り変わりの中で現代に受け継がれてきたもの、語り継がれているものなど、羽村市史は一人ひとりの身近なところにも存在しています。現代に残された多くの史料をもとに歴史の流れに思いを馳せ、記録していくことが市史編さん事業の意義深いところだと思います。

市史を編む。この取り組みは、羽村市が歩んできた軌跡を次世代につないでいくためのとても大切な事業です。これまで調査などにご協力をいただいた多くの皆さんに、改めて御礼を申し上げます。

羽村市企画総務部市史編さん室

羽村市市制施行 30 周年記念誌

—未来へつなぐ“はむらの歩み”—

発行日 令和 3 年 11 月 1 日

編集 羽村市企画総務部市史編さん室

協力 羽村市市史編さん委員会

発行 羽村市

〒 205-8601 東京都羽村市緑ヶ丘 5-2-1

電話 042-555-1111

編集協力・印刷 株式会社タマプリント

無断転写・複製・転載などを禁じます。